

282
32

國學院大學一覽
昭和三年



* 0051813001 *

0051813-001

282-32

国学院大学一覽

国学院大学・編

国学院大学

昭和3-5, 7-8, 10年

昭和3至10

AHN

國學院大學一覽

昭和三年

目次

分館所寄贈本

一品職仁親王殿下告諭.....一

大勳位恒久王殿下命令.....二

大勳位成久王殿下命令.....三

大勳位邦彥王殿下命令.....四

大勳位邦彥王殿下命令.....五

一、國學院設立趣旨書.....六

二、皇典講究所國學院大學擴張趣意書.....八

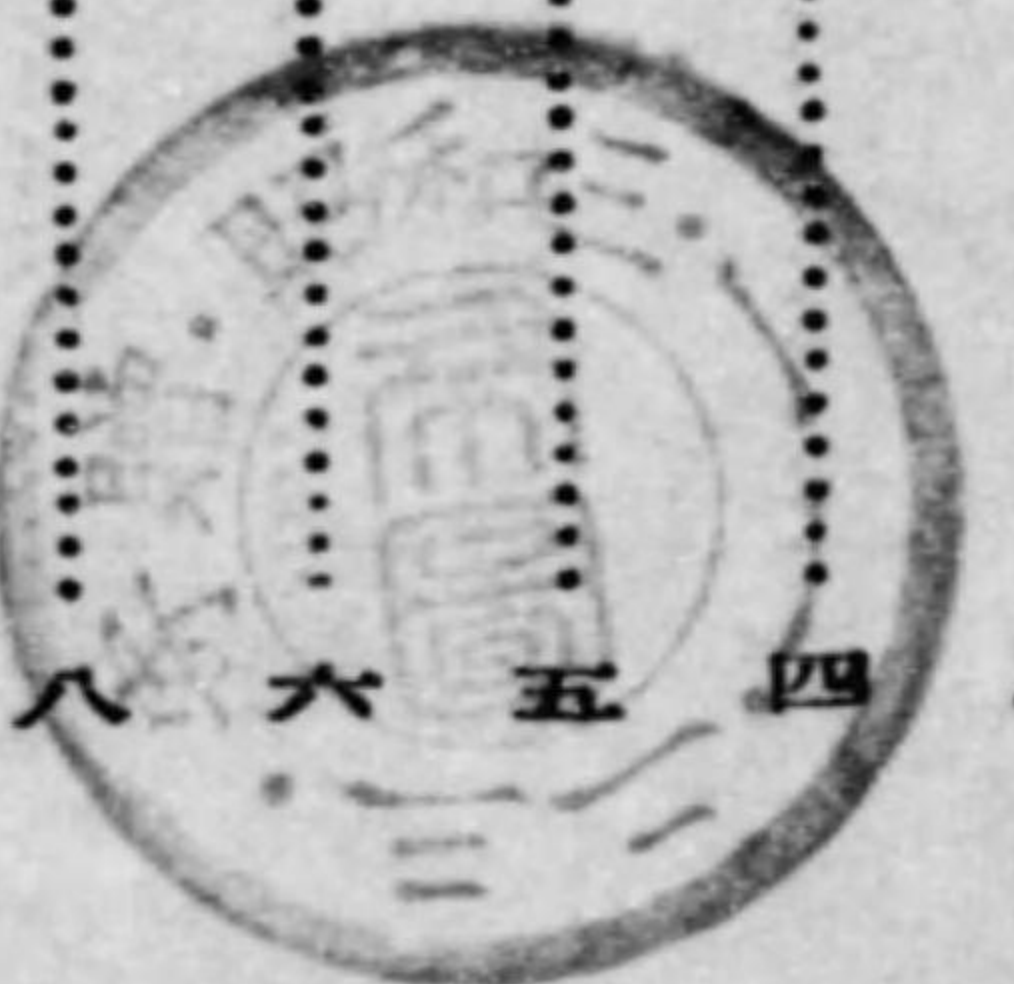
三、國學院大學沿革概要.....一〇

四、皇典講究所寄附行為.....一六

五、皇典講究所規則.....二〇

六、國學院大學商議員會規程.....二七

七、國學院大學教授會規程.....三六



八、國學院大學學位規程	三〇
九、大 學 令	三三
一〇、高等學校令	三六
一一、專門學校令	三九
一二、國學院大學々則	四二
一三、附屬高等師範部規程	四五
一四、臨時專攻科規程	四八
一五、附屬神職部規程	五一
一六、昭和三年度學科配當	五三
(イ) 學 部	五九
(ロ) 豫 科	六三
(ハ) 高等師範部	六五
(ニ) 神 職 部	六九
一七、皇典講究所國學院大學職員	七〇

一八、國學院大學教員	七七
一九、國學院大學學生生徒	八四
二〇、高等學教員無試驗檢定出願心得	一〇六
二一、中等學校教員無試驗檢定出願心得	一〇八
二二、國學院大學附屬圖書館圖書閱覽規則	一一九
二三、國學院大學學友會々則	一二三
二四、稻荷神社獎學金規程	一二五
二五、全國神職會教育補助金規程	一二六

告諭

皇典講究所假建設成ル茲ニ良辰ヲ選ヒ本日開費ノ式ヲ行フ職仁總裁ノ任ヲ負ヒ親ク式場ニ臨ミ職員生

皇典講究所假建設成ル茲ニ良辰ヲ選ヒ本日開費ノ式ヲ行フ職仁總裁ノ任ヲ負ヒ親ク式場ニ臨ミ職員生

凡學問ノ道ハ本ヲ立ツヨリ大ナルハ莫シ故ニ國體ヲ講明シ以テ立國ノ基礎ヲ鞏クシ德性ヲ涵養シ以テ人生ノ本分ヲ盡スハ百世易フヘカラサル典則ナリ

今ヨリ後職員生徒此ノ意ヲ體シ夙夜懈ルコト無ク本費ノ隆昌ヲ永遠ニ期セヨ

明治十五年十一月四日

皇典講究所總裁一品職仁親王



令 旨

國家ノ隆昌ハ道義精神ノ發揮ニアリ方今人文日ニ盛ナリト雖モ專ラ物資ニ偏シ人心ノ變遷洵ニ驚クヘキモノアリ願ルニ皇典講究所國學院ノ設立茲ニ年アリ斯道ニ貢獻スル所亦尠シトセス而モ是レヲ時勢ニ鑑ルニ其施設未タ全カラサルモノアルカ如シ恒久深ク之ヲ慨ス惟フニ世界戰亂ノ餘民心ニ影響スル所更ニ又甚シキモノアラントス此時ニ當リテ本所又本大學ハ宜シク創設ノ趣旨ニ則リ奮テ國體ノ本義ヲ明カニシ道義ノ精神ヲ徹底セシメ益々教育ノ規模ヲ擴張シ以テ國家ノ柱石タルヘキ有爲ノ材幹ヲ養成シ斯道ノ爲メニ大成ヲ期セサルヘカラス本所本大學ノ職員協賛ノ諸員此際一層力ヲ茲ニ致サンコトヲ望ム

大正七年五月二十七日

皇典講究所總裁大勳位恒久王

令 旨

皇典講究所ハ多年國體ノ講明ト國民思想ノ善導トニ力ヲ致シ國學院大學ヲ經營シテ幾多ノ人材ヲ養成シ本邦文化ノ進歩ニ寄與スル所鮮カラス成久本所總裁ノ職ニ推サレタルハ深ク欣トスル所ナリ今ヤ世界ノ大戰其ノ局ヲ結フニ方リ益堅實ナル國民精神ヲ涵養シテ我國運ノ發展ヲ圖ラサルヘカラス成久前總裁ノ遺志ヲ紹キ職員及有志ノ協賛ニ倚リ本所並ニ本大學ノ事業ヲ完成シテ邦家ノタメ貢獻スル所アラシクコトヲ庶幾フ職員協賛ノ諸員克ク斯ノ意ヲ諒セヨ

大正八年七月十二日

皇典講究所總裁大勳位成久王

令 旨

今や國運ノ發展民力ノ増進著シキモノアリ然レトモ深ク省察スレハ内ニハ輕佻詭激ノ風驕奢倦怠ノ兆無キニアラス外ニハ國際ノ關係複雜ヲ極ムルモノアリ國民ノ精神ヲ剛健ニシテ國本ヲ鞏固ナラシムルハ眞ニ刻下ノ急務ナリ夙ニ國體ノ精華ヲ講明シテ民心ノ根本ヲ培養スルニ力ムル皇典講究所國學院大學ノ責務愈重大ナルヲ見ル茲ニ本館ノ新裝成ルニ際シテ邦彥總裁ノ任ニ當リ本所創設ノ主旨ニ基キテ更ニ事業ノ擴張發展ヲ期ス職員學生此ノ旨ヲ體シ益々奮勵努力センコトヲ望ム

大正十三年十一月二十五日

皇典講究所總裁大勳位邦彥王

令 旨

大政維新ノ後上下開國進取ニ急ニシテ競ウテ歐米ノ文物制度ヲ採用シ復タ薰蕕玉石ヲ判ツニ迫アラサリキ是ニ於テ乎往々ニシテ我固有ノ淳風良俗ヲ傷フモノナシトセス近時朝野ノ間漸ク此ニ省ミル所アリテ之カ匡救ノ道ヲ講スルニ至レルモ尙漫ニ歐米ヲ謳歌スルノ風衰ヘス顧フニ上世以還漢土學術ノ渡來佛教ノ東漸アリト雖殆ント皆我國風民俗ニ醇化セルハ是レ畢竟我國民性ノ侵スヘカラサルモノアルニ因ル而シテ之ヲ闡明シ之ヲ恢弘スルモノ實ニ國學ニ負フ所多シ冀クハ諸員深ク省察シ益奮勵努力シ以テ今日ニ處センコトヲ

大正十五年六月七日

皇典講究所總裁大勳位邦彥王

國學院設立趣旨書

六

人ノ世ニ在ルヤ各其本國ニ繫屬ス故ニ其國ヲ愛重シ其君ニ忠實ナルハ人ノ德義ニ於テ當然至要ナル者トス近時各國人ヲ教フル法必先其國史國文國法ヲ授ケ次ニ百科ノ業ニ從事セシムルヲ常トス是蓋人ヲシテ先其國其君ニ於ケル忠愛ノ良心ヲ萌生シ奮然トシテ赤子ノ慈母ヲ慕フカ如ク親和密合シテ離ルヘカラサル感想アラシメ然ル後始メテ立身治生ノ道開物成務ノ業ニ進マシメントスルニアリ故ニ其効果ハ以テ民タルトキハ善良ノ民タルヘク以テ兵タルトキハ義勇ノ兵タルヘク以テ官吏タルトキハ公平正直ノ官吏タルヘク多士濟々トシテ舉ケテ皆君ニ忠ニ國ヲ愛スル精神ヲ興起セサルハ無キナリ各國其國體ヲ異ニシ其姓ヲ更ヘ民其統領ヲ立ツル國ニシテ其臣民ヲ教フル方法猶此ノ如シ願ミルニ本邦ハ萬世一君覆幬ノ下ニ無二ノ臣民アリ親和密合シテ離ルヘカラサル情義ヲ存スルハ建國以來終始一貫火ヲ觀ルカ如シ然ルニ輓近内外本末ノ辨大ニ其宜ヲ得ス其弊延イテ教育ニ及ヒ公私學校ノ設甚多シト雖モ國學ヲ先ニスル方法未行ハレサルハ余輩ノ痛嘆ニ堪ヘサルナリ

余輩ハ夙ニ本邦固有ノ學術ヲ研究シ皇室ノ尊嚴ナル所以國體ノ鞏固ナル所以ヲ講明シ人情ノ基ク所風俗ノ由ル所ヲ尋繹シ國民ヲシテ益國家ニ忠愛ナル德義ヲ深厚ナラシメンコトヲ希ヒ前ニ生徒ヲ養ヒ講

筵ヲ開キ本邦ノ典故文獻ヲ講究スル方法ヲ設ケシモ規模猶未大ナラサル憾アリ今ヤ機運ノ漸熟スルヲ以テ生徒教養ノ法ヲ改正擴張シ茲ニ國學院ヲ設立シテ專國史國文國法ヲ攻究シ我カ國民ノ國家觀念ヲ湧出スル源泉トナシ 皇祖 皇宗ノ謨訓ニ基キ固有ノ倫理綱常ヲ闡明シ且支那泰西ノ道義說ヲ採擇シ以テ之ヲ補充シ以テ國民ノ方向ヲ一ニシ古今一貫君民離ルヘカラサル情義ヲ維持セントス固ヨリ此ヲ以テ宗教若クハ政黨ノ器用トナスニ非サルナリ若夫レ進ミテ人文ノ發達ヲ追ヒ世務ノ必要ニ應スルニ至リテハ海外百科ノ學モ網羅兼修シテ此學ノ進步擴張ヲ計ル可シ

之ヲ要スルニ本院設立ノ趣意ハ我カ國民ノ國民タル忠愛ノ精神ヲ發揮シ智育ヲシテ國體ニ基ケル德育ト共ニ併進セシメンコトヲ期スルニ在リ

明治廿三年七月

伯爵 山田 顯 義

皇典講究所國學院大學擴張趣意書

八

我カ皇典講究所及國學院大學ハ尊嚴ナル國體ヲ講明シテ堅實ナル國民精神ヲ發揮シ眞摯ナル方法ニ依リテ典故文獻ヲ研究スルヲ以テ目的トス初メ本所カ有栖川宮幟仁親王ノ令旨ヲ奉戴シテ本邦教學ノ根本ヲ樹テタルハ明治十五年ニ屬シ又本大學カ忠愛ノ精神ヲ標榜シテ學界ニ立チタルハ實ニ明治二十三年ナリ當時我カ國情ハ大ニ歐米文化ノ攝取ニ急ニシテ動モスレハ國粹ヲ忘却シ其ノ弊轉タ寒心ニ堪ヘサルモノアリキ本所竝ニ本大學此ノ時弊ヲ憂ヘテ起リ爾來數十年ノ間或ハ經營ノ困難ニ會シ或ハ時運ノ否塞ニ遭フコト一再ナラスト雖モ克ク其ノ精神特色ヲ保持シテ終始邦家ニ貢獻シタリ今ヤ國家隆興ノ機内ニ熟シ國民發展ノ要外ニ待テリト雖モ物質的文明ニ偏シタル弊毒ハ深ク民心ニ侵潤シ國民道德ノ頹廢ハ汎ク思想界ノ危機タラムトス況ンヤ戰後ニ於ケル思潮ノ動搖ハ容易ニ逆睹スヘカラサルモノアルヲヤ是レ本所竝ニ本大學カ大ニ内容ヲ改善シ規模ヲ擴張シ益本來ノ主義ヲ發揮シテ以テ國民精神ヲ振興セント欲スル所以ナリ

本年五月總裁竹田宮恒久王殿下特ニ本所本大學ノ職員及協贊ノ諸員ニ對シテ優渥ナル令旨ヲ賜ヒ方今ノ時勢ニ鑑ミテ本所竝ニ本大學ノ施設未タ全カラサルモノアルヲ深慨アラセラレ益教育ノ規模ヲ擴張シテ國家ノ柱石タルヘキ有爲ノ材幹ヲ養成シ以テ斯道ノ爲ニ大成ヲ期セサルヘカラサルコトヲ激勵シ給ヘリ直大等感激ノ至リニ堪ヘス茲ニ皇典講究所國學院大學擴張委員會ヲ組織シ數回ノ會合ヲ重ネテ其ノ方法ヲ審議シ本所本大學設立ノ主旨ニ考ヘ時勢ノ趨勢ニ察シテ終ニ此ノ成案ヲ得タリ

本所及本大學ノ當事者ハ是等ノ改善擴張ヲ圖ルニ最善ノ努力ヲ致サムコトヲ期ス而モ之ヲ遂行センニハ多大ノ資金ヲ要スルコト明白ニシテ素ヨリ現在ノ施設ノ能ク堪フル所ニアラサルナリ依テ今博ク之ヲ有力ノ諸賢ニ訴ヘ其ノ援助ヲ請ハムトス惟フニ本所本大學ノ精神特色カ將來永ク我カ學術教育ノ根柢トナリ又我カ思想界ノ危機ヲ救フニ多大ノ責任ヲ負荷スヘキハ予輩ノ堅ク信シテ疑ハサル所ナリ冀クハ大方ノ諸賢如上ノ主旨ヲ諒トセラレ深厚ノ同情ヲ賜ハラムコトヲ

大正七年十二月

皇典講究所副總裁侯爵 鍋島直大

皇典講究所長 小松原英五郎

國學院大學長文學博士 芳賀矢一

國學院大學沿革概要

本學ハ初メ國學院ト稱シ、明治二十三年七月創立セラル。皇典講究所ノ一事業トシテ經營スル所ニシテ沿革概要左ノ如シ。

明治十五年我カ國固有ノ學術ヲ研究スル目的ヲ以テ皇典講究所起リ、地ヲ東京市麴町區飯田町五丁目ニトシ、後進養成ノ途ヲ開ク。

同二十三年制ヲ改メテ國學院ノ創立成リ、男爵高崎正風院長ニ就任ス。

同二十六年十二月院長高崎正風辭職シ、國重正文院長トナリ、二十九年六月辭職シ、同月伯爵佐佐木高、院長ニ就任ス。

同三十年九月補助科目中法制漢文ノ二科目ヲ更ニ必修科目ト定ム。

同三十二年七月文部省令第廿五號第一條ノ取扱ヲ受クル事ヲ許可セラル。

同年九月本科ノ學科ヲ改定シテ國史法制科、國語國文科、道義哲學科、外國史料、漢文科、英文科、體操科ノ七科目トシ、國史法制、國語國文二科ニ特別ノ規定ヲ設ケ選科生ト雖モ、英文科ヲ除ク外ハ總テ修業セシムルコトトス。

同三十三年十一月文部省令第二十五號第一條ニヨリ、國語漢文科及ヒ歴史科教員免許ノ資格ヲ許可セラル。

同三十四年一月文部大臣ヨリ徵兵令第十三條ニヨル認定ヲ受ク。

同年十一月別科ヲ設置シ、國史法制科、國語漢文科ノ二科ヲ定ム。

同三十五年五月二十六日午前三時出火教員室事務室及ヒ書類器具等烏有ニ歸ス。

同年九月本科ノ學科中國史法制科ニ憲法、神祇式、神社制度ヲ、道義哲學科ニ、神道史ヲ増シ、且ツ

新ニ禮典科ノ一科ヲ設ケ、隨意科トシテ第二、第三年級ニ於テ課スルコトトス。

同三十六年十月研究科ヲ設ケ、國史法制科、國語漢文科、道義科ヲ置キ其ノ年限ヲ二ケ年トシ本院卒業生ニシテ既修ノ學科ニツキ更ニ深ク研究ニ從事セントスルモノヲ入學セシム。

同三十七年四月明治三十六年文部省令第十三號公立私立專門學校令ニ據ル件、並ビニ從來ノ學則ヲ變更シ、師範部ノ學科ヲ國語漢文科及ヒ歴史地理科ニ分チ、大學部師範部ノ外ニ專修部ヲ併置ノ認可ヲ得、同年九月ヨリ實施ス。教員免許ノ資格ハ、國語漢文科ニアリテハ國語及漢文、歴史地理科ニアリテハ歴史トス。

同三十八年十月大學部本科卒業生ニ對シ、明治三十二年文部省令第二十五號第一條ノ取扱ヲ受クルコ

トヲ許可セラル。

同三十九年六月私立國學院大學ト改稱ス。

同四十六年六月校舎改築ノ件認可セラル。

同年七月校舎及附屬舎ノ建築工事ニ着手ス。

同年九月學則ヲ改正シテ專修部ヲ廢シ、大學、師範各部ニ乙種生及ビ選科生ヲ置キ各科トモ倫理ニ關スル時間ヲ増加スルコトヲ認可セラル。

同四十一年校舎本館ノ新築竣工シテ移轉ス。

同年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第十六回卒業式ニ台臨アラセラル。

同四十二年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第十七回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年九月各學科ニ主務講師ヲ置ク。

同年十一月十日宮内省ヨリ本大學規模擴張ノ計畫被聞召以 特旨金貳萬圓御下賜アラセラルル旨ノ御沙汰ヲ傳ヘラル。

同四十三年三月二日佐佐木學長皇典講究所副總裁ニ推薦セラル。

同年同月八日皇典講究所顧問樞密顧問官正二位勳一等伯爵芳川顯正學長ニ就任ス。

同年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第十八回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年九月廿六日學則ヲ改正シ、師範部歴史地理科ヲ歴史科トシ、本學年度ヨリ實施ノ件認可セラル。

同四十四年二月芳川學長辭任ス。

同年同月皇典講究所顧問正二位勳一等伯爵鍋島直大學長ニ就任ス。

同年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第十九回卒業式ニ台臨アラセラル。

大正元年八月學則ヲ改正シテ大學部ノ修業年限一年ヲ短縮シ、師範部ノ歴史ヲ廢止ス。

同二年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第廿一回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年八月廿七日學則第二十條改正ノ件認可セラル。

同三年七月七日皇典講究所總裁恒久王殿下第二十二回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年十月十四日學則第二章學科課程中改正ノ件認可セラル。

同年十一月十五日道場振武館開館式ヲ行フ。

同四年二月二十六日文部省令第二號第一條ニ依リ文官任用令上ノ認定ヲ受ク。

同年七月七日第二十三回卒業式ヲ學長皇典講究所總裁恒久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。

同五年七月七日第二十四回卒業式ニ際シ皇典講究所總裁恒久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。

- 同六年七月七日第二十五回卒業式ニ際シ皇典講究所總裁恒久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。
- 同七年四月十五日鍋島學長皇典講究所副總裁ニ推薦セラル。
- 同年五月二十三日正二位勳一等伯爵土方久元學長ニ就任ス。
- 同年十一月四日學長從一位勳一等伯爵土方久元薨去ス。
- 同年十二月二十二日正四位勳三等文學博士芳賀矢一學長ニ就任ス。
- 同八年一月二十二日宮内省ヨリ皇典講究所並ニ國學院大學規模擴張ノ趣被聞食 恩旨ヲ以テ第一期分大正八年度以降十ヶ年間年々金壹萬圓宛ヲ御下賜アラセラルル旨ノ御沙汰ヲ傳ヘラル。
- 同年七月十一日學則中大學部豫科ヲ前期後期トシ、新ニ道義科ヲ設置スル件及ビ研究科規定等改正ノ件認可セラル。
- 同年七月十二日皇典講究所總裁大勳位成久王殿下第二十七回卒業式ニ台臨アラセラル。
- 同年九月二十日校名中私立ノ二字ヲ削除シ、國學院大學ト稱ス。
- 同九年四月十五日大學令ニ據ル大學ノ設立ノ件認可セラル。
- 同年七月七日皇典講究所總裁成久王殿下第二十八回卒業式ニ台臨アラセラル。
- 同年七月十日國學院大學々則制定ノ件認可セラル。

- 同年九月二十二日大學豫科部長、高等師範部長ノ職ヲ置ク。
- 同年十二月十三日舊制度ノ大學部並ニ高等師範科ノ學年ヲ大學令ニヨル學年ト同一ナラシムルタメ此ノ學年度ニ限り一學期ヲ短縮ノ件認可セラル。
- 同十年四月一日皇典講究所總裁成久王殿下第二十九回卒業式ニ台臨アラセラル。
- 同年十一月十九日日本大學學位規程及教授會規程制定ノ件認可セラル。
- 同十一年三月十五日專門學校令ニ據ル學則ヲ改正シテ臨時專攻科ヲ置ク。
- 同十一年三月二十九日第三十回卒業式ヲ舉グ皇典講究所總裁成久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。
- 同年八月二十九日日本所本大學ヲ東京市外澁谷町若木ニ新築ノ工事ヲ起サンタメ地鎮祭ヲ執行ス。
- 同十二年三月二十六日第三十一回卒業式ヲ舉グ皇典講究所總裁成久王殿下ヨリ特ニ御使ヲ差遣サル。
- 同年五月二十三日澁谷ノ新築ホボ成リテ移轉ス。
- 同年七月一日日本學教授三矢重松ニ對シ本學學位規程ニヨリ文學博士ノ學位ヲ授與ス。
- 同年九月一日震災ノタメ費舍破損ス。
- 同年十月二十五日久邇官邦彦王殿下ヲ總裁ニ奉戴ス。
- 同十三年一月二十二日學部及大學豫科卒業生ニ對シ明治三十六年文部省告示第三十號ノ中等教員無試

驗檢定ニ關スル指定ヲ受ク。

同年三月三日費舎破損ノ修理補強工事ニ着手ス。

同年三月二十三日第三十二回卒業式ヲ舉グ皇典講究所總裁邦彦王殿下御使ヲ差遣サル。

同年四月九日大正八年文部省告示第二百七十四號ヲ以テ高等學校高等科教員無試驗檢定ニ關スル指定ヲ受ク。

同年五月二十二日大正七年文部省令第三號第二條第四號ニヨリ舊制大學部及高等師範部卒業生ノウチ

明治四十二年七月以後ノ大學部第一種卒業者及明治四十二年三月以後ノ高等師範部第一種卒業者ニ

對シ高等學校大學豫科ト同等以上ノ指定ヲ受ク。

同年五月二十七日高等師範部生徒定員變更ノ件認可セラル。(定員ヲ五百五十名トス)

同年六月九日學部學則中入學資格ニ關スル變更ノ件認可セラル。

同十四年三月二十日第三十三回卒業式ヲ舉グ皇典講究所總裁邦彦王殿下御使ヲ差遣サル。

同年十月十四日高等師範部規定第三條學科課程表變更ノ件認可(第三學年へ教練二時間ヲ加フ)セラル。

同年十一月三十日學部學則中修得最少單位數三十ヲ二十四ニ變更ノ件認可セラル。

同十五年三月二十五日皇典講究所總裁邦彦王殿下第三十四回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年八月五日學則第三十一條學部入學資格規定變更ノ件認可セラル。

昭和二年二月六日學長從三位勳一等文學博士芳賀矢一薨去、皇典講究所長江木千之臨時學長ヲ兼攝ス。

同年三月八日專門學校令ニ依ル附屬神職部設立ノ件認可セラル。(定員二百十名)四月二十二日ヨリ授業ヲ開始ス。

同年三月九日故芳賀矢一氏嗣子芳賀檀氏ヨリ獎學資金トシテ金參千圓寄贈セラル。其利子年額二百圓ヲ以テ圖書購入「芳賀家獎學圖書」トシテ附屬圖書館内ニ備附ケ永ク芳志ヲ記念スルコトトス。

同年三月二十九日皇典講究所總裁邦彦王殿下第三十五回卒業證書授與式ニ台臨アラセラル。

同年三月三十一日從三位勳一等文學博士上田萬年學長ニ就任ス。

同年七月十八日學則中改正ノ件認可セラル。(イ)道義學科ヲ倫理科哲學科ノ二分科トス、(ロ)休學期

間中ト雖授業料ヲ徵收スルコト、(ハ)休業日ヲ變更ス。

同年八月三十日高等師範部規程「第十七條高等師範部卒業生(國文選科生ヲモ含ム)ニシテ禮典ヲ修了シタルモノニハ證衡ノ上皇典講究所ノ相等學階ヲ授與ス」削除ノ件認可セラル。

同三年三月二十六日總裁邦彦王殿下第三十六回卒業式ニ台臨アラセラル。

同年三月二十六日大學部定員増加ノ件認可セラル。(學部三六〇、豫科二四〇トス)

同年五月十八日校舍増築(五百餘坪)ノ件認可セラル。
 同年五月二十五日大學部學則一部改正ノ件認可セラル。「(イ)豫科ノ試験從來年三回ノ所二回トス、
 (ロ)豫科二年ノ課程中ニ自然科學ヲ加フ。」
 同年六月二十日増築校舍上棟式ヲ行フ。

皇典講究所寄附行爲

第一 名稱及事務所

第一條 本所ハ皇典講究所ト稱ス

第二條 本所ノ事務所ヲ東京府豊多摩郡澁谷町若木九番地ニ置ク

第二 目的及事業

第三條 本所ハ皇國ノ國體ヲ講明シ道義ヲ發揚シ典故文獻ヲ研究シ且之ニ必要ナル教育ヲ施スヲ以テ
 目的トス

第三 資産及經費

第四條 本所ノ資産ハ皇室恩賜金、不動産其ノ他寄附金等ヨリ成ル

前項資産中皇室恩賜金及不動産ニシテ從來基本財産トナシタルモノ竝ニ基本財産トシテ指定セル
 寄附金及協議員會ノ決議ニ依リ基本財産ニ編入シタルモノヲ以テ基本財産トス從來基本財産トナ
 セル皇室恩賜金指定寄附金ハ之ヲ處分スルコトヲ得ズ此ノ他ノ基本財産ヲ處分セントスルトキハ
 協議員會ノ同意ヲ經且主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 本所ノ經費ハ資産及事業ヨリ生ズル收入其ノ他寄附金等ヲ以テ之ヲ支辨ス
 毎事業年度ノ豫算及決算ハ協議員會ノ決議ニ付ス但シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マデヲ
 以テ事業年度トス

第四 職員及協議員

第六條 本所ニ理事十名監事二名ヲ置キ協議員會之ヲ選定ス

理事中ニ於テ所長、國學院大學長、専務理事ヲ互選ス

第七條 理事及監事ノ任期ハ五ヶ年トス但シ重任スルコトヲ得

理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ之ヲ補缺スベシ

補缺理事及監事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

理事及監事ハ任期滿了ノ後ト雖モ後任者ノ就任スルマデハ其ノ職務ヲ行フモノトス

第八條 本所ハ協議員三十名乃至四十名ヲ置キ所長之ヲ選定ス

第五 附 則

第九條 此ノ寄附行爲ヲ變更スルトキハ協議員會ノ同意ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

皇典講究所規則

第一章 總 則

第一條 皇典講究所ハ本邦ノ典故文獻ヲ講究ス

第二條 皇典講究所ハ國學院大學ヲ置キ學生ヲ養成ス

第三條 皇典講究所ハ國學者ノ志願ニ依リ其ノ學力ヲ檢定シ學階ヲ授與ス

作業ノ檢定ハ前項ニ包含セラルルモノトス其ノ檢定ニ對シテハ證書ヲ授與ス

第四條 皇典講究所ハ國學上有用ノ書籍ヲ著作印行ス

第五條 皇典講究所ハ本所ヲ東京府豊多摩郡澁谷町若木九番地ニ置キ出張所ヲ各地方ニ置キテ分所ト

稱ス

第二章 職 制

第六條 皇典講究所ハ皇族ヲ推戴シテ總裁トシ

第七條 皇典講究所ニ左ノ職員ヲ置ク

副總裁	一名
顧問	若干名
所長 (理事)	一名
專務理事 (理事)	一名
理事	十名
監事	二名
主事	四名
書記	若干名

典故文獻ノ調査、著述、編纂學術檢定及會計監督ノ爲委員ヲ設クルコトヲ得

第八條 本所ニ協議員三十名乃至四十名評議員若干名ヲ置ク

第九條 本所ノ事業ヲ翼賛スルモノヲ贊襄又ハ協賛ト爲ス

第十條 總裁ハ協議員會ノ協賛ヲ經テ之ヲ推戴ス

副總裁ハ協議員會ノ協賛ヲ經テ之ヲ推薦ス

第十一條 顧問ハ理事會ノ決議ヲ經テ總裁之ヲ委囑ス

第十二條 理事及監事ハ協議員會ニ於テ選定ス

所長及專務理事ハ理事會ニ於テ互選ニ依リ之ヲ定ム

第十三條 主事ハ理事會ノ決議ヲ經テ所長之ヲ任免ス

第十四條 書記ハ所長之ヲ任免ス

第十五條 協議員及評議員ハ所長之ヲ選定シ贊襄協賛ハ所長之ヲ委囑ス

第十六條 所長ハ本所ヲ代表シ所屬職員ヲ統督シ常務ハ之ヲ專決シ其ノ他ノ事項ハ理事會ノ決議ニ依

リ執行ス

所長ハ學階及檢定證書ノ授與ヲ行フ

第十七條 所長事故アルトキハ理事會ノ決議ニ依リ理事會中ヨリ臨時其ノ代表者ヲ定ム

第十八條 專務理事ハ所長ノ指揮ヲ受ケテ常務ヲ掌理ス

左ノ事務ハ專務理事之ヲ處理スルモノトス

一 所印及職印ノ管守

二 機密ニ關スル事項

三 職員ノ進退移動ニ關スル事項

四 現金及國債地方債其ノ他有價證券ノ出納並ニ管守ニ關スル事項

第十九條 專務理事事故アルトキハ理事會ノ決議ニ依リ臨時理事會中ノ一人代テ常務ヲ執行スルモノト

ス

第二十條 理事ハ重要ナル事務ヲ審議決定ス

第二十一條 監事ハ事務ヲ監査ス

第二十二條 主事ハ上職ノ指揮ヲ受ケテ事務ヲ掌理ス

第二十三條 書記ハ上職ノ指揮ヲ受ケテ事務ニ從事ス

第二十四條 本所ニ庶務教務會計ノ三課ヲ置キ主事ヲ以テ課長トス

必要アルトキハ庶務會計ノ事務ヲ分チテ別ニ一課ヲ置クコトヲ得

各課ニ關スル管掌事務規程ハ理事會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第二十五條 國學院大學ニ左ノ職員ヲ置ク

學 長 (理事)

一 名

教授	若干名
講師	若干名
主事	三名
學生監	一名
書記	若干名

第二十六條 國學院大學ニ商議員ヲ置クコトヲ得

第二十七條 學長ハ理事中ニ於テ互選ニ依リ之ヲ定ム

第二十八條 教授及講師ハ學長ノ推薦ニ依リ所長之ヲ委囑ス

第二十九條 主事學生監及書記ハ學長ノ具申ニ依リ所長之ヲ任免ス

第三十條 學長ハ學務ヲ總理シ所屬職員ヲ統督ス

第三十一條 教授及講師ハ學生ノ教授及訓育ヲ擔任ス

第三十二條 主事ハ學長ノ指揮ヲ受ケテ事務ヲ掌理ス

第三十三條 學生監ハ上職ノ指揮ヲ受ケテ學生ヲ監督ス

第三十四條 書記ハ上職ノ指揮ヲ受ケテ事務ニ従事ス

第三章 會 議

第三十五條 會議ヲ分チテ左ノ四種トス

一 協議員會

二 評議員會

三 大學職員會

四 商議員會

第三十六條 協議員會ハ毎年一回評議員會ハ必要ニ應シ所長之ヲ召集ス

第三十七條 協議員會ニ於テ議決スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一 總裁ノ推戴、副總裁ノ推薦

二 理事及監事ノ選定

三 基本財産ノ處分

四 經費收支ノ豫算及決算

五 其ノ他所長ニ於テ重要ト認メタル事項

六 協議員十名以上ニ於テ提出シタル件

第三十八條 協議員會ノ議案ハ理事會ノ決議ヲ經テ所長之ヲ提出ス

第三十九條 評議員會ハ所務ニ關シテ所長ヨリ諮詢シタル事件ヲ審議ス

第四十條 大學職員會ハ教授、主事、及學生監ヲ以テ組織シ教務ニ關シ學長ニ於テ必要ト認メタル

事件ヲ審議ス但シ場合ニヨリ講師ヲ出席セシムルコトヲ得

第四十一條 商議員會ハ學務ニ關シ學長ヨリ諮詢シタル事件ヲ審議ス

大學職員會及商議員會ハ必要ニ際シ隨時之ヲ開ク

第四十二條 協議員會及評議員會ノ開閉ハ所長之ヲ行ヒ大學職員會及商議員會ノ開閉ハ學長之ヲ行フ

第四十三條 協議員會及評議員會ハ所長之ヲ議長トナリ大學職員會及商議員會ハ學長之ヲ議長トナリ

議事ヲ整理ス但シ所長學長事故アルトキハ互選ヲ以テ議長ヲ定ム

第四十四條 協議員會ハ其ノ過半数出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス但シ豫メ通知シタル會議

ノ事件ニ付テハ委任狀ヲ以テ他ノ協議員ニ其ノ議權ヲ委託スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ之ヲ

出席者ト認ム

第四十五條 議事ハ出席者ノ多数決ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長之ヲ定ム

第四十六條 緊急ヲ要スルトキハ臨時協議員會ヲ開クコトヲ得但シ場合ニヨリ書面ヲ以テ議案ニ對ス

ル表決ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ表決數ハ全員ノ過半数ナルヲ要シ可否同數ナルトキハ所長之ヲ決ス

第四章 會計

第四十七條 本所ノ會計年度ハ毎年七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ニ終ル

第四十八條 本所ノ經費ハ資産及事業ヨリ生スル收入並ニ神宮、官國幣社、府縣社以下神社其ノ他ノ

寄贈金及雜收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第五章 附則

第四十九條 此ノ規則ノ改正ヲ要スルトキハ協議員會ノ議ニ附スヘシ此ノ場合ニ於テハ出席員三分ノ

二以上ノ賛同ヲ得ルニ非サレハ改正ノ決議ヲナスコトヲ得ス

第五十條 資産管理ニ關スル細則及分所規則並ニ會計事務取扱上必要ノ細則其ノ他學務ニ關スル細則

ハ理事會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

國學院大學商議員會規程

第一條 財團法人皇典講究所規則第二十六條及ヒ第四十一條ニヨリ本大學ニ商議員會ヲ設ケテ學長ノ

諮詢ニ供フ

第二條 商議員會ハ本學ノ關係者及ヒ本學ノ趣旨ヲ贊襄セル者若干名ヲ以テ組織ス

第三條 商議員ハ學長ノ推薦ニヨリテ所長之ヲ囑託ス

第四條 商議員會ハ學長ノ諮詢ニ對シテ左ノ事項ヲ審議ス

一 學則ノ改正ニ關スル事項

二 教授及ヒ講師ノ囑託ニ關スル事項

三 其ノ他學長ニ於テ必要アリト認メタル事項

第五條 商議員中常任委員拾名ヲ置キ隨時緊急ナル事項ヲ審議ス

第六條 常任委員ハ商議員ノ互選トシ任期ヲ三箇年トス

但シ再選ヲスルコトヲ得

第七條 商議員會及ヒ常任委員會ニハ皇典講究所專務理事皇典講究所並ニ國學院大學主事國學院大學

豫科部長高等師範部長其ノ議ニ參與ス

國學院大學教授會規程

第一條 本大學教授會ハ學部教授會豫科教授會高等師範部教授會ノ三トス

第二條 教授會ハ教授ヲ以テ組織シ學長コレガ議長トナル

學長ニ於テ必要ト認メタルトキハ教授以外ノ講師職員ヲモ列席セシムルコトヲ得

第三條 學部教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一 學部ノ學科課程ニ關スル事項

二 學部ノ試験及ヒ成績ニ關スル事項

三 學位授與及ヒ取消ニ關スル事項

四 其ノ他學長ヨリ諮詢シタル事項

第四條 豫科教授會並ニ高等師範部教授會ノ審議事項ハ第三項ヲ除ク外前條ノ規程ニ準ス

第五條 學部教授會ハ毎月第一火曜日豫科教授會ハ毎月第二水曜日高等師範部教授會ハ毎月第三木曜

日トス(七、八月ヲ除ク)

但シ議事ノ要件ナキトキハ前日マデニ休會ヲ通知スヘシ

學長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ臨時ニ教授會ヲ開クコトアルヘシ

第六條 學長ニ於テ必要ト認メタルトキハ本大學全部ノ教員總會ヲ召集スルコトアルヘシ

國學院大學學位規程

- 第一條 本大學ニ於テ授クル學位ハ文學博士トス
- 第二條 本大學研究科ニ二箇年以上在學シタル者ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得
- 第三條 前條ニ該當スル者ノ外論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スル者ハ願書ニ履歷書及ビ手数料金百圓ヲ添ヘ願出ヅヘシ論文ハ一篇ニ限ル但シ參考トシテ他ノ論文ヲ附加スルハ妨ナシ
- 第四條 論文ノ提出アリタルトキハ學長ハ學部教員中ヨリ二名以上ノ審査員ヲ囑託シ之ガ審査ヲ行ハシム審査ハ特別ノ事情ナキ限り六箇月以内ニ之ヲ終了スルモノトス
- 第五條 審査員ハ論文審査ノ要旨ヲ添ヘテ學長ニ報告シ學長ハ之ヲ教授會ノ議ニ附シテ之ヲ決ス
- 第六條 教授會ニ於テ學位ヲ授與スヘキモノト議決シタルトキハ本大學ハ文部大臣ノ認可ヲ得テ學位ヲ授與ス
- 第七條 本大學ニ於テ學位ヲ授與セラレタル者其ノ榮譽ヲ汚辱スル行爲アリト認ムルトキハ本大學ハ教授會ノ議決ヲ經文部大臣ノ認可ヲ得テ學位ノ授與ヲ取消ス
- 第八條 學位授與若クハ授與取消ニ關スル教授會ハ教授數三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議決スルコトヲ得ス

第九條 學位授與ノ議事ハ出席教授三分ノ二以上授與取消ノ議事ハ出席教授ノ四分ノ三以上ノ多數ニ依リテ之ヲ決ス決議ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

第十條 學位記ノ様式左ノ如シ

學位記

族籍

氏名

右ハ本大學研究科ニ於テ規定ノ研究ヲ卒ヘ論文ヲ提出シテ教授會ノ審査ニ合格セリ仍テ學位令第二條ニ依リ茲ニ文學博士ノ學位ヲ授ク

年 月 日

學位記

族籍

氏名

右ハ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シ本大學教授會ノ審査ニ合格セリ仍テ學位令第二條ニ依リ茲ニ文學博士ノ學位ヲ授ク

年 月 日

國 學 院 大 學

大 學 令

(勅令第三百八十八號。大正七年十二月六日)

大 學 令

第一條 大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ教授シ並其ノ滋奧ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スベキモノトス

第二條 大學ニハ數個ノ學部ヲ置クヲ常例トス但シ特別ノ必要アル場合ニ於テハ單ニ一個ノ學部ヲ置クモノヲ以テ一大學ト爲スコトヲ得

學部ハ法學、醫學、工學、文學、理學、農學、經濟學及商學ノ各部トス
特別ノ必要アル場合ニ於テ實質及規模一學部ヲ構成スルニ適スルトキハ前項ノ學部ヲ分合シテ學

部ヲ設ケタルコトヲ得ス

第三條 學部ニハ研究科ヲ置クヘシ

數個ノ學部ヲ置キタル大學ニ於テハ研究科間ノ聯絡協調ヲ期スル爲之ヲ綜合シテ大學院ヲ設ケタルコトヲ得

第四條 大學ハ帝國大學其ノ他官立ノモノノ外本令ノ規定ニ依リ公立又ハ私立トナスコトヲ得

第五條 公立大學ハ特別ノ必要アル場合ニ於テ北海道及府縣ニ限り之ヲ設立スルコトヲ得

第六條 私立大學ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ大學ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第八條 公立及私立ノ大學ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ學部ノ設置廢止亦同シ

前項ノ認可ハ文部大臣ニ於テ勅裁ヲ請フヘシ

第九條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該大學豫科ヲ修了シタル者、高等學校高等科ヲ卒リタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス
入學ノ順位ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 學部ニ三年以上在學シ一定ノ試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ學士ト稱スルコトヲ得
前項ノ在學年限ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上トス

第十一條 研究科ニ入ルコトヲ得ル者ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上其ノ他ノ者ニ在リテハ三年以上當該學部ニ在學シ其ノ他相當ノ學力ヲ具ヘタル者ニシテ當該學部ニ於テ適當ト認メタルモノトス

第十二條 大學ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得
大學豫科ニ於テハ高等學校高等科ノ程度ニ依リ高等普通教育ヲ爲スヘシ

第十三條 大學豫科ノ修業年限ハ三年又ハ二年トス
修業年限三年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス
修業年限二年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル

所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十四條 大學豫科ノ設備、編制、教員及教科書ニ付テハ高等學校高等科ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條 大學豫科ノ生徒定數ハ毎年ノ豫科修了者ノ員數ガ其ノ年當該大學ニ收容シ得ル員數ヲ超過セサル程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 大學及大學豫科ノ學則ハ法令ノ範圍内ニ於テ當該大學之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 公立及私立ノ大學ニハ相當員數ノ專任教員ヲ置クヘシ

第十八條 私立大學ノ教員ノ採用ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ公立大學ノ教員ニシテ官吏ノ待遇ヲ受ケサル者ニ付亦同シ

第十九條 公立及私立ノ大學ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第二十條 文部大臣ハ公立及私立ノ大學ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲナスコトヲ得

第二十一條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ大學ト稱シ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウル學校ニハ當分ノ内第二十一條ノ規定ヲ適用セス

高等學校令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十九號

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス

第二條 高等學校ハ官立、公立又ハ私立トス

第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及府縣トス

第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條 高等學校ハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス

專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、尋常小學校ヲ卒業シタルモノ又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ
一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令及高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

專 門 學 校 令

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス

專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルベシ

第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り專門學校ヲ設置スルコトヲ得但シ
沖繩縣ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 私人ハ專門學校ヲ設置スルコトヲ得

第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若クハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者、又ハ

之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムベシ、但シ美術音樂

ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

前項檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科研究科及別科ニ關スル規程ハ公立

學校ニ在リテハ管理者私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立專門學校ノ職員ノ旅費及給與ニ關スル規程ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スベシ但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セザ
ルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セザル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ズ

附 則

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルベキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ第

四條ニ準シ認可ヲ申請スベシ

前項ノ手續ヲ爲サザルモノハ前項ノ期間ノ滿了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス

第一次ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモノト見做ス

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學
專門學校、東京外國語學校東京美術學校及東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

國學院大學學則

第一章 總 則

- 第一條 本大學ハ道義國史國文及ヒ之カ研究應用ニ須要ナル諸學科ヲ學修セシメ國家有用ノ人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本大學ニ學部豫科及ヒ研究科ヲ置ク
- 第三條 豫科ハ學部ニ入ラントスル者ノ爲ニ豫備教育ヲ施ス所ニシテ研究科ハ學部ノ業ヲ卒ヘタル者ノ更ニ深ク其ノ蘊奧ヲ究ムル所トス
- 第四條 本大學學部卒業生ハ文學士ト稱スルコトヲ得
- 第五條 本大學學部卒業生ハ皇典講究所ノ學階ヲ受クルコトヲ得
- 第六條 本大學ノ學生生徒(選科生聽講生ヲ除ク)ハ在學中徵兵令第十三條ニヨリ入營ヲ延期セラル

第二章 學科及ヒ試驗規程

第一 大學學部

- 第七條 本大學ニ設置スル專修學科左ノ如シ
 - 道義學科
 - 國史學科
 - 國文學科
- 第八條 本大學ノ授業ヲ分チテ講義及ヒ演習トシ一學年毎週二時間ヲ以テ授業一單位トス
- 第九條 學生ハ講義及ヒ演習ヲ合セテ每學年八單位以上ヲ學習スヘシ
- 第十條 本大學ニ開設スル講義及ヒ演習左ノ如シ

甲種(每學年開設スルモノ)

- 帝國憲法及ヒ皇室典範(一) 國 民 道 德(三) 神 道(三) 禮 典(一)
- 哲 學(一) 東 洋 哲 學(二) 西 洋 哲 學(二) 倫 理 學(一)
- 教 育 學(二) 社 會 學(一) 東 洋 倫 理 學 史(一) 西 洋 倫 理 學 史(二)
- 東 洋 哲 學 史(二) 西 洋 哲 學 史(二) 宗 教 學(一) 日 本 宗 教 史(一)

- 國史(四)
- 法制史(二)
- 東洋史(二)
- 西洋史(二)
- 史學研究法(一)
- 古文書學(二)
- 文學概論(一)
- 國文學史(二)
- 國語學(二)
- 言語學(二)
- 道義ニ關スル演習(四)
- 國史ニ關スル演習(四)
- 國文學ニ關スル演習(六)
- 漢文學ニ關スル演習(四)
- 西洋文學ニ關スル演習(三)

乙種(三學年間二一回開設スルモノ)

- 行政法(一)
- 民法(一)
- 刑法(一)
- 經濟學(一)
- 論理及ビ認識論(一)
- 教育史(一)
- 國學史(一)
- 日本美術史(一)
- 日本音樂史(一)
- 歷史地理(一)
- 有職故實(一)
- 漢文學史(一)
- 漢文法(一)
- 佛教概説(一)

丙種(三學年間二一回開設スルモノ)

- 憲法論(一)
- 考古學(一)
- 人類學(一)
- 比較神話學(一)
- 比較言語學(一)
- 日本風俗史(一)
- 美術史(一)
- 音樂通論(一)
- 圖書館學(一)
- 新聞學(一)

以上ノ外、科外講義ヲ開設スルコトアルヘシ

第十一條 學生ハ三學年間ニ左記ノ必修科目ヲ學修スルコトヲ要シ其ノ他ハ本大學開設ノ授業科目中ニツイテ隨意選擇シテ學修スルモノトス

道義學科 (十六單位)

一、倫理科

- 帝國憲法及ビ皇室典範(一)
- 國民道德(二)
- 神道(二)
- 倫理學(一)
- 東洋倫理學史(一)
- 西洋倫理學史(一)
- 國史(一)
- 社會學(一)
- 宗教學(一)
- 日本宗教史(一)
- 道義ニ關スル演習(四)

二、哲學科

- 帝國憲法及ビ皇室典範(一)
- 國民道德(一)
- 哲學概論(一)
- 東洋哲學史(一)
- 哲學學(四)
- 東洋哲學學(三)
- 西洋哲學學史(二)
- 社會學(一)
- 東洋倫理學史(一)
- 西洋倫理學史(一)

國史學科 (十六單位)

- 帝國憲法及ビ皇室典範(一)
- 國民道德(一)
- 國史(四)
- 日本法制史(一)
- 東洋史(二)
- 西洋史(二)
- 史學研究法(一)
- 國史ニ關スル演習(四)

國文學科 (十六單位)

帝國憲法及皇室典範(一) 國民道徳(一) 文學概論(一) 國文學史(二)
 國語學(一) 言語學(一) 國史(一) 國文學ニ關スル演習(五)

漢文學ニ關スル講義又ハ演習(三) 但シ教員檢定ヲ希望スル者ハ教育學(二)ヲ學修スル事ヲ要ス

第十二條 前條ノ必修科目ト合セテ授業單位二十四以上ヲ修了シ尙ホ卒業論文試驗ニ合格シタル者ヲ以テ卒業トス

第十三條 科目ノ修了試驗ハ各學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第十四條 卒業論文ハ在學第三學年ノ終ニ於テ提出スルコトヲ得

第十五條 卒業論文ノ題目ハ專修學科ノ範圍ニ屬スルモノタルヘク學年ノ始ニ於テ之ヲ届出ツヘシ

第十六條 皇典講究所ノ學階(學正)ヲ受ケントスル者ハ學部入學後禮典一單位及ヒ其ノ實習ヲ修了スルコトヲ要ス

第十七條 在學六年ニ及ヒテ尙ホ卒業セサル者ハ退學シタル者ト認ム但シ休學期間ハ之ヲ算入セス

第二 豫科

第十八條 豫科ニ於ケル各學年學科目及ヒ其ノ每週授業時數ハ左表ニ據ル豫科學科課程(文學科)

學科目	學年	第一學年	時間數週	第二學年	時間數週
道義		講義	一		一
國語		講義 作文讀	五	講義 作文讀 文法 修辭學	五
漢文		講義	四	講義 文法 讀	四
英語		講義 作文讀 書取 文法 會話	一〇	講義 作文讀 書取 文法 讀	九
獨逸語		講義	三	講義 讀	三
歷史		國史 東洋史	五	國史 西洋史	五
哲學概論					二
心理學					一
論理學					一
法制及經濟					二

自然科學			
體操	四		二
計	三三三		三三二
總計	(三三六)		(三三五)

獨逸語ハ隨意科目トス

第十九條 豫科ノ試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トシ學期試験ハ第二學期中ニ行ヒ學年試験ハ學年末ニ於テ之ヲ行フ

第二十條 引續キ二回學年試験ニ合格セサルモノハ除名ス

第二十一條 病氣若クハ事故ニヨリ定期試験ヲ受ケ得サルトキハ詮議ノ上追試験ヲ許可スルコトアルヘシ但シ追試験ヲ受クル者ハ試験料金拾圓ヲ納付スヘシ

第二十二條 豫科修了生ニシテ成績優良ナルモノハ師範學校中學校高等女學校英語科教員無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

第三 研究科

第二十三條 研究科ニ入學スルコトヲ得ヘキモノハ本大學卒業生タルコトヲ要ス

但シ右ト同等以上ノ學歷アル者ニ對シテハ教授會ニ於テ詮議ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 研究科學生ハ學長ノ承認ヲ經テ指導教員ヲ定メ研究事項ニツキテ其ノ指導ヲ受クヘシ

第二十五條 研究科ニハ別ニ學科課程ヲ設ケス 但シ時宜ニヨリ講義ヲ開設スルコトアルヘシ研究科學生ハ本大學開設ノ講義ヲ聽講シ又ハ演習ニ出席スルコトヲ得

第二十六條 研究科學生ハ每學年ノ終ニ於テ其ノ研究シタル事項ニツキ報告書ヲ作製シ指導教員ヲ經テ學長ニ提出スヘシ

第二十七條 研究科學生ノ在學期間ハ二年トス 但シ引續キ研究セントスル者ハ更ニ三年以内ニ限り之ヲ延長スルコトヲ得

第二十八條 研究科學生其ノ研究シタル事項ニツキテ論文ヲ提出シタルトキハ學長ハ學部教授會ニ之カ審査ヲ行ハシメ其ノ成績ニヨリテ文學博士ノ學位ヲ授ク

第三章 學年 學期 休業日

第二十九條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三十一條 休業日左ノ如シ

日曜日 祝祭日 本大學記念日(十一月四日)

冬季休業

十二月二十六日ヨ
リ一月八日ニ至ル

春季休業 三月二十六日ヨリ

四月十日ニ至ル

夏季休業

七月十六日ヨリ
九月十日ニ至ル

第四章 入學 在學 休學 退學

第三十二條 本大學學部ニ入學セントスルモノハ本大學豫科ヲ修了シタル者タルヘシ

但シ缺員アル場合ニ限り左ノ順序ニヨリ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、高等學校高等科ヲ修了シタル者

二、大學令ニヨル大學ノ學部ヲ卒業シタル者又ハ學士試験ニ合格シタル者

三、大學令ニヨル大學ノ豫科ヲ修了シタル者

四、大正七年文部省令第三號第二條ノ第四號ニヨリ指定セラレタル學校卒業者

第三十三條 豫科ニ入學セントスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者タルヘシ

一、中學校ヲ卒業シタル者又ハ高等學校高等科一學年ノ課程ヲ修了シタル者

二、專門學校入學者檢定規程第五條ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者

三、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般ノ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者

第三十四條 本大學開設ノ科目中或科目ヲ選ヒテ學修セントスル者ハ學力査定ノ上選科生トシテ入學

ヲ許可ス

第三十五條 選科生ニシテ第十六條ノ特典ヲ得ントスル者ハ三學年以上在學シ授業單位二十四以上

(禮典一單位ヲ含ム)及ヒ禮典ノ實習ヲ修了スルコトヲ要ス

第三十六條 相當ノ學歷若クハ地位ヲ有シ講義ヲ聽カントスル者ハ聽講生トシテ許可スルコトアルヘ

シ

第三十七條 入學志願者ハ入學願書ニ規定ノ書類及ヒ入學檢定料ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第三十八條 入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

第三十九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ宣誓名簿ニ記名シ其ノ父兄(父兄ナキ者ハ親戚)ヲ甲保證人トシ

東京市内又ハ隣接町村ニ於テ一家ヲ立ツル身元確實ナル者ヲ乙保證人ト定メ入學金ヲ添ヘテ在學證書ヲ差出スヘシ 但シ父兄ノ市内又ハ隣接町村ニ住居スル者ハ乙保證人ヲ要セス

第四十條 保證人轉居改氏名ノトキハ直ニ届出ツヘク死亡シタル場合ニハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第四十一條 學生生徒事故若クハ病氣ニヨリ缺席スルトキハ其ノ旨届出ツヘシ但シ一週間以上ニ亘ルトキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス

第四十二條 病氣又ハ兵役ノ義務ニヨリ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ但シ病氣ニ因ルモノ、休學期間ハ一ケ年ヲ越ユルコトヲ得ス 兵役ノ義務ニヨル休學期間ハ授業料ヲ徴收セズ
第四十三條 一旦退學シタルモノ復校セントスルトキハ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ入學ノ規定ヲ準用ス 但シ入學金ヲ徴收セス

第五章 入學檢定料 入學金 授業料

第四十四條 入學檢定料金ハ金五圓入學金ハ金五圓トス

第四十五條 授業料ハ學部年額金百圓(選科生聽講生モ之ニ同シ)豫科金八拾圓研究科金五十圓トシ毎

學年開始ノ日ヨリ一週間以内ニ之ヲ納付スヘシ 但シ三期ニ分納セントスル者ハ每學期左ノ期日迄ニ納入スヘシ

第一期 四月三十日 學部金參拾五圓 豫科金參拾圓

第二期 九月二十日 學部金參拾五圓 豫科金參拾圓

第三期 一月十五日 學部金參拾圓 豫科金貳拾圓

第四十六條 學生生徒事故若クハ病氣ノタメ缺席スルモ授業料ヲ減免セラル、コトナシ

第六章 給費 貸費

第四十七條 本大學學生生徒(選科生ヲ除ク)ニシテ學術優等品行方正ナル者ニハ其ノ請願ニヨリ學資ヲ給與若クハ貸與スルコトアルヘシ

第四十八條 給貸費ヲ受ケントスル者ハ事由書ヲ添ヘ願書ヲ差出スヘシ

第四十九條 給貸費額ハ一人一學年金貳百四十圓以内トス

但シ研究科ハ參百六拾圓マテ増額スルコトヲ得

第五十條 給費ノ許可ヲ受ケタル者ハ誓約書ヲ差出スヘシ

第五十一條 貸費ノ許可ヲ受ケタル者ハ保證人連署ノ上貸費辨償契約書ヲ差出スヘシ

第五十二條 保證人ヲ變更シタル場合ニハ契約書ヲ改ムヘシ

第五十三條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ滿一ケ年以内ヲ期限トシ爾後貸費ヲ受ケタル

年數ノ二倍ニ均シキ期間内ニ月賦ニヨリ之ヲ返納スルモノトス

第五十四條 給貸費ヲ受クル學生生徒ニシテ休學シ又ハ停學ヲ命セラレタルモノハ其ノ給貸費ヲ止ム

第五十五條 給貸費ヲ辭シタルトキハ貸費生ハ第五十三條ニ準シテ貸費金ヲ返納スヘシ前條ニヨリ給

貸費ヲ止メラレタル者ハ即時其ノ金額ヲ返納スヘシ

但シ疾病ニヨル者ハ其ノ退學セサル時ニ限り第五十四條ノ規定ニヨルコトヲ許スコトアルヘシ

第七章 賞 罰

第五十六條 學生生徒ニシテ品行方正學業優等ナル者ハ學年ノ終ニ於テ次學年ノ特待生ニ選定ス

特待生ハ授業料ヲ免除セラル、コトアルヘシ

第五十七條 規則及ヒ命令ニ違反スル等不都合ノ所爲アル者ハ其ノ輕重ニ從ヒ戒飭シ或ハ停學ニ處ス

第五十八條 品行不良ニシテ改悛ノ見込ナシト認メタル者又ハ學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メ

タル者ハ除名又ハ退學ニ處ス

附屬高等師範部規程

第一條 高等師範部ハ專門學校令ニ依リ道義國史國文漢文其ノ他高等ナル學術ヲ教授シ併セテ汎ク是

カ研究應用ニ須要ナル諸學科ヲ修メシメ以テ中等學校教員タラントスル者ノ爲ニ資スル所トス

第二條 高等師範部ノ修業年限ハ三年トス

第三條 高等師範部ノ學科課程ハ左表ニ據ル

學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年
道義	國民道徳	二	二	二
國文	講義、文讀、作文、歌法	九	八	九
漢文	講義、文讀、作文、法、作	九	八	九
國史	通史、文讀、法、作	三	三	三
教育	心理、生理、學	二	四	三
哲學	倫理學、社會學、概論	三	三	三
法學	職業、實	三	三	三
時數		每週 二	每週 二	每週 二

法	經濟	法學通論	二	經濟通論	二	現行法制、憲法	三
英	語	文講 法作 文讀	四	文講 法、作 文讀	四	講	三
體	操		四		二		二
授業總時數			三五		三三		三四

第四條 高等師範部ノ生徒ヲ第一種、第二種ニ別ツ

第一種トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ入學試験ニ合格シタル者タルヘシ

- 一 中學校ヲ卒業シタルモノ
 - 二 專門學校入學者檢定規定ニヨル試験檢定ニ合格シタルモノ
 - 三 專門學校入學者檢定規程ニヨリ專門學校入學ニ關スル指定ヲ受ケタル者
 - 四 師範學校ヲ卒業シタルモノ 但シ師範學校卒業生ハ義務年限終了ニ關スル地方長官ノ證明書ヲ入學願書ニ添附スヘシ
- 右第一種タルヘキ資格ヲ有スル者ニ對シテハ左ノ學科目ノ入學試験ヲ行フ

國史 國文 漢文 英語

第二種生トシテ入學スルコトヲ得ル者ハ左記四號中ノ一ニ該當シ入學試験ニ合格シタル者タルヘシ

- 四、小學校本科正教員、尋常小學校本科正教員並ニ小學校准教員ノ免許狀ヲ有スル者
- 右第二種生タルヘキ資格ヲ有スル者ニ對シテハ中學校卒業ノ程度ニ於イテ左ノ學科目ノ入學試験ヲ施行ス

國史 國文 漢文 外國史 地理
數學(算術代數幾何) 英語

第五條 相等ノ學歷アルモノニシテ本部ノ學科目中國文又ハ漢文ノ一ノミヲ專修セントスル者ヲ選科生トス

但シ選科生ニテモ專修學科目以外ニ本所所定ノ道義、國史、教育、哲學ノ四學科ハ缺クコトヲ得ス選科生ニ對シテハ第四條ニ於ケル第二種生ノ入學試験ヲ準用ス

第六條 相等ノ學歷アルモノニシテ單ニ講義ヲ聽カントスル者ハ聽講生トシテ許可スルコトアルヘシ

第七條 高等師範部第一種生ハ徵兵令ニヨリ在學中入營ヲ延期セラル

第八條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條 休業日左ノ如シ

日曜日 祝祭日 本大學記念日 (十一月四日)

春季休業 (三月二十六日ヨリ四月十日ニ至ル) 夏季休業 (七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル)

冬季休業 (十二月二十六日ヨリ一月八日ニ至ル)

第十一條 高等師範部ノ試験ヲ別チテ學期試験學年試験ノ二種トス

學年試験ハ學年末ニ於イテ施行スルモノトス

學期試験ハ第二學期ニ於イテ毎學年一回施行スルモノトス

第十二條 學年成績ハ各學科ニ就キ學年及ヒ學期ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定ム

卒業成績ハ各學年ノ成績ヲ通約シテ算出スルモノトス

第十三條 試験ノ評點ハ百點ヲ滿點トシ各學科六十點以上ヲ及第トス

第十四條 生徒病氣若クハ事故ニヨリテ學年試験ヲ受ケサル場合ハ詮議ノ上追試験ヲ許可スルコトアルヘシ

但シ追試験ヲ受ケントスル者ハ試験料金拾圓ヲ豫メ納付スヘシ

第十五條 高等師範部ノ授業料ハ一學年金九十圓トス

授業料ハ學年開始ノ日ヨリ一週間以内ニ納付スヘシ

但シ三期ニ分納セントスル者ハ左ノ期日マテニ納付スヘシ

第一期 四月二十日 金參拾圓

第二期 九月二十日 金參拾圓

第三期 一月十五日 金參拾圓

第十六條 高等師範部卒業生ハ明治四十一年文部省令第三十二號ニヨリ師範學校中學校高等女學校教員無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

第十七條 高等師範部卒業生ニシテ更ニ特殊ノ事項ヲ研究セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設ク

第十八條 高等師範部生徒ニ對シテハ本規定ノ外本大學ノ學則ヲ準用ス

附屬高等師範部研究科規程

- 第一條 高等師範部ノ卒業生ニシテ道義、國史、國文、漢文、及ヒ本大學ニ於イテ必要ト認ムル學科ニツキ更ニ深ク研究セントスルモノノ爲ニ研究科ヲ置ク
- 專門學校令ニヨル大學部、高等師範部ノ卒業生モ亦研究科ニ入學スルコトヲ得
- 第二條 研究科ノ修業年限ハ二年トス
- 第三條 研究科入學志望ノ者ハ研究セントスル題目ヲ選定シ願書ニ之ヲ明記シ履歷書ヲ添ヘテ差出ス
ヘシ
- 第四條 研究科入學志望ノ者ハ教授會ノ詮衡ヲ經テ學長之ヲ許可ス
- 第五條 研究科學生ハ授業料トシテ年額金參拾圓ヲ學年開始ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ納付スヘキモノトス
- 第六條 研究科ニ指導教員若干名ヲ置ク
- 第七條 研究科學生ハ毎年二回(一月、六月)其ノ研究狀況ヲ記シテ指導教員ノ檢閱ニ供スヘシ指導教員ハ之ニ意見ヲ附シテ學長ニ差出スモノトス

- 第八條 研究科學生ハ修業年限ノ終リニ於イテ其ノ研究シタル題目ニ就キ論文ヲ提出スヘシ學長ハ審査委員ヲ定メテ之カ審査ヲ委囑シ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第九條 研究科學生ハ相當ノ理由ナクシテ半途退學スルコトヲ得ス
- 第十條 研究科學生ニ對シテハ本規程ノ外本大學ノ學則ヲ準用ス

臨時專攻科規程

- 第一條 臨時專攻科ハ本大學ノ前身タリシ專門學校令ニヨル國學院大學ノ大學部、高等師範部第十期(明治三十五年七月卒業)以後ノ卒業生ニシテ師範學校、中學校、高等女學校ノ教員タラントスル者ノ爲ニ須要專門ノ學科ヲ授クル所トス
- 第二條 臨時專攻科ハ一年ヲ以テ卒業トス
- 第三條 臨時專攻科ヲ歴史部ト國語漢文部トノ二部ニ分ツ
- 第四條 臨時專攻科卒業生ハ明治四十一年文部省令第三十二號ニヨリテ師範學校、中學校、高等女學校教員無試験檢定ヲ受クルコトヲ得
- 第五條 歴史部ノ學科及ヒ授業時間數左ノ如シ

必修科目	業一週間授	選科	科目	業一週間授
學科	六	倫理學	倫理學	二
國史	四	宗教史	宗教史	二
東洋史	四	美術史	美術史	二
西洋史	二	文哲史	文哲史	二
史學演習	二	哲學史	哲學史	二
史學研究法	二	法制史	法制史	二
社會學	二	神祇史	神祇史	二

備考 選擇科目ハ二科目ヲ隨意選擇スルコトヲ得一週授業時數ハ二十四時間トス

第六條 國語漢文部ノ學科及ヒ授業時數左ノ如シ

必修科目	業一週間授	選科	科目	業一週間授
國文學演習	四	文學概論	文學概論	二
國文學史	二	神道	神道	二
國文讀本演習	二	東洋哲學史	東洋哲學史	二
國語學	二	宗教學	宗教學	二
漢文學演習	四	言語學	言語學	二
漢文讀本演習	二	佛敎概說	佛敎概說	二
漢文讀本演習	二	社會學	社會學	二

備考 選擇科目ハ三科目ヲ隨意選擇スルコトヲ得一週授業總時數ハ二十四時間トス

附屬神職部規程

第七條 臨時專攻科ノ授業料ハ附屬高等師範部ニ準據ス
 第八條 臨時專攻科生徒ニ對シテハ本規程ノ外本大學ノ規程ヲ準用ス

第一條 神職部ハ專門學校令ニヨリ神祇及國史國文ニ關スル高等ナル學術ヲ教授シ以テ神職タラント

スルモノヲ養成スルヲ目的トス

第二條 神職部ニ本科別科ヲ置キ其ノ修業年限ハ三年トス

第三條 神職部ノ學科課程ハ左表ニ據ル

學科	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
道義學	國民道德哲學概論 心理學	神道要論、倫理學 神道書國民道德書 解題及演習	國民道德史、社會 學、宗教學
歷史	神祇史、國史、國 史演習、東洋史	神祇史、國史、國 史演習、東洋史、西洋 史	國史、國史演習、西 洋史、史學概論、考 古學、東洋文化史
國語	國漢文講讀、祝詞及 祝詞作法、日本文學 史、文法、作文、作歌	國漢文講讀、祝詞及 祝詞作法、日本文學 史、文法、作文、作歌	國漢文講讀、日本 國語史、文法、作 文、作歌
法典	憲法及皇室典範、 法學通論、神社概 說	皇室制度、祭祀令 神社法令	日本法制史、神社 制度
禮典	神社祭式、國民禮 法	神社祭式、雅樂	神社祭式、雅樂
英語	講讀及英作文法	同上	同上
時間	每週 五	每週 五	每週 六
時間	三	三	三
時間	三	四	四
時間	三	三	三

體操	武道	教授總時數
四	二	三六
四	二	三七
四	二	三六

科外修養及實習

(備考) 科外講義ハ臨時トス

第二、三學年ノ雅樂及別科ノ英語ハ隨意科トス

第四條 入學志願者ハ入學願書ニ規定ノ書類及入學檢定料ヲ添ヘテ願出ツヘシ

第五條 神職部本科ニ入學スルコトヲ得ルモノハ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有シ品行端正ナル男子タルヘシ

入學志願者ノ數募集人員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

一、中學校ヲ卒業シタルモノ

二、專門學校入學者檢定規程ニヨリ試験檢定ニ合格シタルモノ

三、專門學校入學者檢定規程ニヨリ一般ノ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタルモノ

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當シ入學試験ニ合格シタルモノハ別科生トシテ入學ヲ許可ス

一、小學校本科正教員尋常小學校本科正教員並ニ小學校准教員ノ免許狀ヲ有スルモノ

二、皇典講究所ノ認定セル地方神職養成所ノ學科ヲ履修シ一等司業ヲ得タルモノ

三、内務大臣ノ委託ニヨル皇典講究所神職養成部教習科(乙種)ヲ卒業シタルモノ

第七條 相當ノ學歴若シクハ地位ヲ有シ一科若シクハ數科目ノ講義ヲ聽カントスルモノハ缺員アル場

合ニ限り聽講生タルコトヲ許可スルコトアルヘシ

第八條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ宣誓名簿ニ記入シ其ノ父兄(父兄ナキモノハ親族)ヲ甲保證人トシ

東京市内又ハ隣接町村ニ於テ一家ヲ立ツル身許確實ナル者ヲ乙保證人ト定メ入學金ヲ添ヘ在學證

書ヲ差出スヘシ

但シ父兄ノ市内又ハ隣接町村ニ居住スルモノハ乙保證人ヲ要セス

第九條 保證人轉居改名ノトキハ直ニ届出ツヘシ死亡ノ場合ハ更ニ他ノ保證人ヲ選定シ届出ツヘシ

第十條 事故若シクハ病氣ノタメ缺席スルトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

但シ一週間以上ニ亘ル事故缺席ノトキハ保證人ノ連署ヲ要シ病氣缺席ノ場合ハ醫師ノ診斷書ヲ

添附スヘシ

第十一條 病氣又ハ兵役ノ義務ニヨリ休學セントスル者ハ保證人連署ノ上願出ツヘシ

但シ病氣ニ因ルモノ、休學期間ハ壹ケ年ヲ越ユルコトヲ得ス兵役ノ義務ニ因ル休學期間ハ授業料

ヲ徴收セス

第十二條 一旦退學シタルモノ復校セントスルトキハ事情ヲ調査シ原學年以下ニ入學ヲ許可スルコト

アルヘシ

此ノ場合ニ於テハ入學ノ規程ヲ準用ス但シ入學金ヲ徴收セス

第十三條 入學檢定料金ハ金五圓入學金ハ金五圓トス

第十四條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十五條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十六條 休業日左ノ如シ

日曜日、祝祭日、本大學記念日(十一月四日)

春季休業(三月二十六日ヨリ四月十日ニ至ル)

夏季休業(七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル)

冬季休業(十二月二十六日ヨリ一月八日ニ至ル)

第十七條 神職部ノ試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トス

學年試験ハ學年末ニ於テ施行ス

學期試験ハ第二學期ニ於テ施行ス

第十八條 學年成績ハ各學科ニ就キ學年及學期ノ成績ヲ通約シテ之ヲ定ム

卒業成績ハ各學年ノ成績ヲ通約シテ算出スルモノトス

第十九條 試験ノ評點ハ百點ヲ滿點トシ各學科六十點以上ヲ及第トス

第二十條 病氣若シクハ正當ナル事故ニヨリ學年試験ヲ受ケ得サル場合ハ詮議ノ上追試験ヲ許可スル

コトアルヘシ

但シ追試験ヲ受ケントスル者ハ試験料金拾圓ヲ豫メ納付スヘシ

第二十一條 神職部ノ授業料ハ一學年九拾圓トス授業料ハ學年開始ノ日ヨリ一週間以内ニ納付スヘシ

若シ都合ニヨリ分納セントスルモノハ左ノ通り納付スルコトヲ得

第一期 四月二十日マデ 三十圓

第二期 九月二十日マデ 三十圓

第三期 一月十五日マデ 三十圓

但シ神職ノ子弟ニシテ地方廳ノ推薦ニヨルモノハ詮議ノ上授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第二十二條 所定ノ課程ヲ修了セルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十三條 神職部本科卒業生ハ皇典講究所學階授與規則ニヨリ學正ヲ授ケラル

第二十四條 規則及ヒ命令ニ違反セル等ノ不都合ノ所爲アリタル者ハ其ノ輕重ニ從ヒ戒飭シ又ハ停學

ニ處ス

第二十五條 品行不良ニシテ改悛ノ見込ナシト認メタルモノ又ハ學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認

メタル者ハ除名又ハ退學ニ處ス

昭和三年度學科配當

一 學 部

帝國憲法及皇室典範

杉村 講師

國民道德

算 教 授

國民道德	田中教授	同	(休講)	河野教授
神道	宮地教授	神道		山本教授
禮典	青戸教授	哲學		松永教授
東洋哲學	小柳教授	東洋哲學		花山教授
同	市村教授	西洋哲學		松永教授
西洋哲學	松永教授	倫理學		藤井講師
教育學	入澤教授	教育史		長谷川教授
社會學	今井教授	東洋倫理學史		岩橋講師
西洋倫理學史	藤井講師	東洋哲學史		花山教授
東洋哲學史	小柳教授	西洋哲學史		見尾講師
新聞學(休講)	鈴木教授	宗教學		加藤教授
日本宗教史	荻野教授	史(室町時代)		渡邊教授
國史(王朝時代)	和田教授	同	(上代)	黑板教授
同	龍教授	同	(江戶時代)	井野邊教授

同	(維新)	澤田教授	法制史	植木教授
東洋史		松井教授	東洋史	市村教授
西洋史		今井講師	西洋史	森田教授
史學研究法		今井講師	古文書學	岩橋教授
文學概論		石幡講師	國文學史(發生期ヨリ)	折口教授
國文學史(和歌史)		鳥野教授	同	山崎教授
同	(明治時代)(休講)	藤村教授	國語學	金澤教授
國語學		松下教授	言語學	金田一教授
道義演習(古事記)		松本教授	道義演習(祝詞宣命)	下田教授
同	(禮典)	青戸教授	同	岩橋講師
國史演習(文明史)		辻講師	國史演習(史學)	坪井教授
同	(文獻史)	和田教授	同	松本教授
同	(古文書)	岩橋教授	國文學演習(萬葉集)	折口教授
國文學演習(源氏物語)		折口教授	同	金子教授
			(平安朝物語)	

同	武田教授
同	(俳諧)
志田教授	
同	(近世文學)
山崎教授	
同	和田教授
漢文學演習	市村教授
同	(爾雅)
小柳教授	
西洋文學演習	西田教授
經濟學	中村講師
美術史	藤懸教授
歷史地理	今井講師
漢文學史(休講)	小柳教授
考古學	鳥居教授
比較神話學(休講)	松村講師
圖書館學(休講)	和田教授

同	武田教授
同	(倭名抄)
金澤教授	
同	(劇史)(休講)
高野教授	
漢文學演習(論語)	小柳教授
同	池田教授
西洋文學演習	太田講師
同	尾崎教授
國學史	河野教授
日本音樂史	田邊教授
有職故實(休講)	關根教授
佛教概說(休講)	花山教授
人類學	鳥居教授
音樂通論(休講)	田邊教授

豫科各學年授業學科目

豫科一年

國民道德	河野教授
同	金子教授
作文	今泉教授
作歌	武田教授
漢文講讀	小林講師
英語講讀	坂井講師
同	菊地教授
獨逸語	西田教授
東洋史	松井教授
論理學	松永教授
武道	三船、佐藤、大内講師

國語講讀	山崎教授
同	武田教授
國文法	今泉教授
漢文講讀	松井教授
同	尾川講師
同	尾崎教授
英作文、英文法	近藤講師
國史	大森教授
心理學	見尾講師
法學通論	西川教授
教練	配屬將校

豫科二年

國民道德	河野教授	國語講讀	山崎教授
同	鳥野教授	同	武田教授
國文法	御巫教授	作文	御巫教授
作歌	武田教授	漢文講讀	齋藤教授
同	熊坂講師	英語講讀	尾崎教授
同	山田講師	同	大宮講師
英文法、英作文	太田講師	英語講讀	高橋講師
獨逸語	西田教授	國史	高柳教授
東洋史	松井教授	西洋史	森田教授
哲學概說	松永教授	經濟通論	江刺教授
教練	配屬將校		

高等師範部各學年授業學科目

師範部一年

國民道德	河野教授	軍記物語	鳥野教授
作歌	鳥野教授	往來物	鳥野教授
徒然草	山崎教授	國文法	松下教授
古今集	金子教授	謡曲俳句	堀江教授
平家物語	松本教授	現代文	渾大防講師
作文	渾大防講師	十八史略	尾川講師
論語	尾川講師	孟子	尾川講師
大學	齋藤教授	中庸	齋藤教授
唐宋八大家文	齋藤教授	唐詩選	新田講師
漢作文作詩	新田講師	國史	植木教授
心理學	見尾講師	論理學	松永教授
法學通論	西川教授	英語	山田講師
英語	坂井講師	武(道(柔))	三船、花桐講師

武 道(劍) 佐藤、遠藤講師
教 練 配屬將校

師範部二年

國民道德 田中教授
枕草子 金子教授
近世文 烏野教授
修辭學 堀江教授
國文法 高橋講師
作文 西角井講師
文選 熊坂講師
漢文學史 熊坂講師
詩經 池田教授
國史 植木教授
倫理學 見尾講師

同 (弓)

七六

大内、松尾講師

國文學史 折口教授
作歌 金子教授
古事記 松本教授
太平記 堀江教授
現代文 渾大防講師
春秋左氏傳 山田(立)講師
荀子 熊坂講師
漢文作詩 新田講師
韓非子 池田教授
哲學概論 松永教授
社會學 今井教授

經濟學 江刺教授
英語 近藤講師
禮典 青戸教授

師範部三年

國民道德 箕教教授
國文學史 山崎教授
作歌 千葉講師
源氏物語 折口教授
祝詞宣命 次田講師
漢文學史 新田講師
書經 池田教授
莊子 小柳教授
時文 松井教授
國史 井野邊教授

英語 尾崎教授
教練 配屬將校
禮典 大塚講師

國文讀本演習 堀江教授
國文法 松尾講師
萬葉集 武田教授
言語學聲音學 金田一教授
漢文演習 新田講師
禮記 池田教授
老子 小柳教授
易經 小柳教授
漢文作詩 山田(立)講師
有職故實 松本教授

七七

教育學教授法	入澤教授	憲法	杉村教授
現行法	足立講師	英語	太田教授
英語	山田(正)講師	英語	配屬將校
禮典	青戶教授	禮典	大塚講師

神職部各學年授業學科目

神職部第一學年

國民道德	田中教授	論理學、哲學概論	古田教授
心理學	松永教授	神祇史	河野教授
國史	植木教授	國史演習	佐伯講師
東洋史	森田教授	國語講讀	今泉教授
國語講讀	堀江教授	國文學史	御巫教授
國文法	御巫教授	作文	岩崎講師
漢文講讀	中野講師	漢文講讀	守谷講師

祝詞講義	宮西教授	祝詞作法	飯田講師
憲法及皇室典範	澤田講師	神社概說	宮西教授
法學通論	青戶教授	國民禮法	青戶教授
神社祭式	近藤講師	英語講讀	山田講師
英語講讀	山田講師	英語講讀	三船講師
英作文法	矢田講師	武道(柔)	大內講師
武道(劍)	配屬將校	武道(弓)	
體操(教練)			

神職部第二學年

神道要論	河野教授	倫理學	松永教授
神道書國民道德	河野教授	神祇史	河野教授
書解題及演習	山下講師	國史演習	松本教授
國史	松井教授	西洋史	森田教授
東洋史	堀江教授	國語講讀	西角井講師
國語講讀	新田講師	漢文講讀	守谷講師
漢文講讀			

祝詞講義	宮西教授
國文學史	御巫教授
作文	西角井講師
皇室制度	植木教授
神社法令	青木講師
英語講讀	山田講師
英作文法	近藤講師
雜	樂(隨意科)
	辻豐儀 講師
	東儀 講師

祝詞作文	飯田講師
國文法	松尾講師
作歌	岩崎講師
祭祀令	佐伯講師
神社祭式	青戸教授
英語講讀	近藤講師
體操(教練)	配屬將校

皇典講究所國學院大學職員

總裁 久邇宮邦彦王殿下

顧問

子爵清浦奎吾	市外荏原都入新井町 電高輪五三〇〇
子爵澁澤榮一	市外王子町飛鳥山 電小石川四六〇
伯爵德川達孝	芝區三田綱町一 電高輪二〇七五
男爵平山成信	小石川區原町二一 電小石川六七六
子爵水野鍊太郎	芝區白金猿町六〇 電高輪一八〇

理事

大谷嘉兵衛	芝區芝口二ノ一二
岡田良平	小石川區原町一二五 電小石川九八五
法學博士 木喜徳郎	麴町區一番町 電四谷二一八七

(所長)

江木千之
牛込區余丁町三五
電四谷二五二五

(學長)

文學博士 上田萬年
小石川區鷺籠町一六一
電大塚九二一

(專務)

桑原芳樹

澁谷町松濤二五

電青山七一四八

(當番)

宮西惟助

本郷區駒込林町四〇

電小石川七六三六

今泉定介

芝區三田綱町九

電高輪二〇五五

内藤久寛

麻布區材木町三六

電青山六五六五

佐々木勇之助

本郷區弓町二ノ一九

電小石川三二〇〇

文學博士 三上参次

本郷區駒込林町一六九

電小石川四六〇〇

井上準之助

麻布區三河臺町三一

電青山五七五〇

文學博士 服部宇之吉

市外戶塚町諏訪二四五

電牛込二三六〇

監事

法學博士 水町袈裟六

澁谷町神山

電青山七〇〇二

本山彦一

大阪府泉北郡高石町

商議員

赤司鷹一郎

本郷、春木町三ノ三九

電小石川七三〇〇

青戸波江

市外平塚町中延一〇七七ノ一

石川岩吉

芝高輪西一ノ一官舎

電高輪六八〇〇

東京帝國大學名譽教授
市外戶塚町字諏訪八〇

市村瓊次郎

植木直一郎

赤坂、青山北町六ノ五〇

河野省三

澁谷町金玉七〇、大雲館

電青山四四二一

神崎一作

市外千駄ヶ谷六五五

電四谷九一〇

澤田章

赤坂、青山南町五ノ四五

侯爵 佐木行忠

鎌倉長谷海岸通

男爵 千秋隆

市外千駄ヶ谷原宿一七〇、一三號

電青山一四〇

塚本清治

市外戶塚宮田三八二

電牛込四四六

東京帝國大學名譽教授
服部宇之吉

(前出)

松浦鎮次郎

小石川、茗荷谷町四九

電小石川三一〇〇

文學博士 松本愛重
市外青山穩田一六
東京帝國大學名譽教授
帝國學士院會員
三上參次
(前出)
宮西惟助
(前出)

文學博士 山本信哉
市外澁橋角管七二五
文學博士 小柳司氣太
市外雜司ヶ谷淺井原九七四
折口信夫
市外大井町五〇五二

主事
青山重鑒
市外上目黒宿山一四四〇
小林大次郎
市外杉並町馬橋一二二

囑託
阿部正秀
澁谷町向山三六
八四
山下三次
市外松澤村赤堤五九三

學生監
文學士 太田虎一
牛込、原町三ノ五九
電牛込九一四
本江政一
市外代々幡町代々木上原一、一三三

豫科部長
中野佐柿
澁谷町中通二ノ二〇
山本吉之助
國學院大學内

文學士 松井等
牛込矢來町六九

高等師範部長 堀江秀雄
市外高圓寺二二九

神職部主任 河野省三
(前出)

秘書 横山祐丸
市外中野町一八七五

庶務課 課長 青山重鑒
(前出)

主任 澁谷吉福
市外澁谷町羽澤九六
森田四郎
市外入新井不入斗二一

教務課

課長 小林大次郎
(前出)
主任 守谷武文
市外澁谷町大和田六二

鈴木茂枝
牛込、水道町五二

石井清彦
府下代々木富ヶ谷一四二九

岩下宜令
市外品川町南品川二日市二八九

人事係主任 阿部正秀
(前出)
雜誌部主任 外島元英
澁谷町水川二八根岸ハル方
進藤讓
澁谷町水川三

擴張課

課長 青山重鑒

主任 宮木木藏

調查部主任 佐伯有義

文學士 梅本寬一

市外杉並町馬橋一三

會計課

課長 山下三次

(前出)

主任 門脇盛吾

市外世田谷町若林五九六

樋爪文一

麴町、飯田町五八三

附屬圖書館

館長 澤田章

主任 赤坂、青山南町五ノ四五

吉田吉郎

京橋區西河岸通三ノ三

松宮靜二

澁谷町羽澤七六

宮崎秋一

本郷、金助町三九(吉田方)

山室武夫

市外代々木山谷一二五白石方

小川徳與

澁谷町水川二七

電青山六五五〇

八六

木村佐一郎

市外世田ヶ谷町元宿九一六

教員

法學士 足立收

高田町大原一五九〇ノ四

電牛込一四五四

青木仁藏

市外野方町下沼袋一五一〇

青戸波江

荏原町中延一〇七七ノ一

池田四郎次郎

赤坂、青山南町六ノ一四七

電青山二〇五一

文學士 石幡五郎

澁谷町長谷戸四五

文學博士 市村瓊次郎

(前出)

文學士 岩橋遵成

小石川、竹早町六八

校醫

館長 澤田章

主任 赤坂、青山南町五ノ四五

吉田吉郎

京橋區西河岸通三ノ三

松宮靜二

澁谷町羽澤七六

宮崎秋一

本郷、金助町三九(吉田方)

山室武夫

市外代々木山谷一二五白石方

小川徳與

澁谷町水川二七

電青山六五五〇

岩橋小彌太

市外西巢鴨宮仲二二九九

岩崎春彦

本郷、眞砂町六

飯田秀眞

市外千駄谷原宿二九六

文學士 今井時郎

市外杉並町阿佐谷六四四

文學士 今井登志喜

市外千駄谷四八三

今泉忠義

市外世田ヶ谷町太子堂四五七

府營住宅二五

文學士 入澤宗壽

市外田端西臺六三〇

文學士 植木直一郎

赤坂、青山北町六ノ五〇

八七

文學士、法學士 江 刺 喜 四 郎

赤坂、丹後町一

電青山一二六一

(弓道) 教士 大 内 義 一

市外集鴨町庚申塚側

文學士 太 田 善 男

牛込、市谷富久町七九

大 塚 承 一

市外杉並町大字田端關口一二一

文學士 大 宮 健 太 郎

市外堀内村松木一二六三

文學士 大 森 金 五 郎

市外高田町高田一一三七

河 野 省 三

(前 出)

法學博士 寛 克 彦

牛込、北町七

電牛込一八

八八

文學博士 加 藤 玄 智

小石川、丸山町一一

電小石川二〇七

文學博士 金 澤 庄 三 郎

本郷、曙町七

金 子 元 臣

小石川、白山御殿町一一〇

電小石川六五二六

金 光 慥 爾

青山アバート八號、一〇二

文學博士 紀 平 正 美

本郷、千駄木町五七

文學士 金 田 一 京 助

市外杉並町成宗三三三

文學士 菊 池 武 一

小石川、雜司谷町一一四

(劍道) 教士 佐 藤 義 遵

川崎市京町一丁目二〇七

澤 田 章

(前 出)

法學士 澤 田 五 郎

麻布、筈町神道本局傍

佐 伯 有 義

市外西大久保三七三

文學士 志 田 義 秀

市外杉並町高圓寺四七九

下 田 義 照

市外荏原郡池上町市倉七〇

法學士 杉 村 章 三 郎

小石川、原町一二五

鈴木 文 四 郎

市外上落合四七〇

電四谷三四四〇

八九

文學士、法學士 江 刺 喜 四 郎

赤坂、丹後町一

電青山一二六一

(弓道) 教士 大 内 義 一

市外集鴨町庚申塚側

文學士 太 田 善 男

牛込、市谷富久町七九

大 塚 承 一

市外杉並町大字田端關口一二一

文學士 大 宮 健 太 郎

市外堀内村松木一二六三

文學士 大 森 金 五 郎

市外高田町高田一一三七

河 野 省 三

(前 出)

法學博士 寛 克 彦

牛込、北町七

電牛込一八

八八

文學博士 加 藤 玄 智

小石川、丸山町一一

電小石川二〇七

文學博士 金 澤 庄 三 郎

本郷、曙町七

金 子 元 臣

小石川、白山御殿町一一〇

電小石川六五二六

金 光 慥 爾

青山アバート八號、一〇二

文學博士 紀 平 正 美

本郷、千駄木町五七

文學士 金 田 一 京 助

市外杉並町成宗三三三

文學士 菊 池 武 一

小石川、雜司谷町一一四

(劍道) 教士 佐 藤 義 遵

川崎市京町一丁目二〇七

澤 田 章

(前 出)

法學士 澤 田 五 郎

麻布、筈町神道本局傍

佐 伯 有 義

市外西大久保三七三

文學士 志 田 義 秀

市外杉並町高圓寺四七九

下 田 義 照

市外荏原郡池上町市倉七〇

法學士 杉 村 章 三 郎

小石川、原町一二五

鈴木 文 四 郎

市外上落合四七〇

電四谷三四四〇

八九

文學博士 關 根 正 直

小石川、駕籠町二二二
電小石川四六七三

文學博士 高 野 辰 之

市外代々木中山谷一六七
電四谷七六二

高 橋 龍 雄

市外西大久保三六五

高 橋 皐

澁谷町常盤松御料地

高 柳 光 壽

市外上駒込染井一二

武 田 祐 吉

市外高井戸村中高井戸字北三三

文學博士 田 中 義 能

小石川、白山御殿町一〇七

理學士 田 邊 尙 雄

市外下落合五四六

文學博士 鳥 居 龍 藏

本郷元町一ノ五文化アパートメント
電小石川五九〇一

東 儀 民 四 郎

牛込、砂土原町三ノ八

法學士 中 村 至 道

澁谷町代官山アパート四ノ三三

中 野 佐 柿

(前 出)

文學士 西 川 宏

市外澁谷町羽澤五三

法學士 西 川 一 男

市外西大久保三〇〇
電四谷一三〇〇

西 角 井 正 慶

埼玉縣大宮町

新 田 興

市外巢鴨三ノ二

千 葉 胤 明

四谷、南町九
電四谷五五八〇

文學士 次 田 潤

市外池袋一五三九

文學博士 辻 善 之 助

市外戸塚七八三
電牛込一五七八

辻 英 吉

牛込、原町三ノ六八

文學士 土 屋 幸 正

本郷、お茶水女子高師官舎

文學博士 坪 井 九 馬 三

本郷、彌生町三
電小石川二五四〇

鳥 野 幸 次

神奈川縣藤澤町高瀬通リ

長 谷 川 乙 彦

赤坂、新坂町三二

花 桐 清 二 郎

市外池袋三家二三四三

文學士 花 山 信 勝

市外西大久保一九

文學士 藤 懸 靜 也

市外淀橋柏木九一六

文學博士 藤 村 作

市外千駄谷五三四

文學士 藤 井 章

市外高圓寺六三七

文學士 古 田 良 一

本郷、西片町五

豐 時 義

牛込、喜久井町三六

堀 江 秀 雄

(前 出)

松 下 大 三 郎
市外中野町中野四〇七六
文學士 松 永 材
市外井萩村下萩窪三六〇
文學博士 松 本 愛 重
(前出)
文學士 松 井 一 等
(前出)
松 尾 捨 治 郎
川崎市京町三ノ辻
文學士 御 巫 清 勇
市外田端五三八
(柔道)範士 三 船 久 藏
小石川、中富坂町一九
電小石川七四二九
文學博士 宮 地 直 一
市外代々木山谷一七五ノ一
電四谷三四四五

宮 西 惟 助
(前出)
文學士 見 尾 勝 馬
市外上練馬字東向山
文學士 森 田 鐵 三 郎
市外田端六五三
守 谷 武 文
(前出)
矢 田 季 夫
市外野方町沼袋一一五二
文學士 山 崎 麓
市外目黒町上目黒宿山一四四〇
山 田 立 夫
市外代々木富谷一四六七
山 田 正 形
市外代々木富谷一四六七

文學博士 山 本 信 哉
市外澁橋角管七二五
山 下 恒 次
小石川、表町一〇九舞鶴館
電小石川二七五四
文學士 龍 肅
市外杉並町阿佐谷二二三
文學博士 和 田 英 松
市外千駄谷五三八
電青山七一八七
文學博士 和 田 萬 吉
本郷西片町一〇
文學博士 渡 邊 世 祐
小石川、林町九五
電小石川六〇〇二
井 野 邊 茂 雄
牛込、赤城下町七四

陸軍配屬將校

遠 藤 千 代 亮
澁谷町中通二ノ三〇
尾 川 敬 二
市外中野町谷戸二三九〇
文學士 荻 野 仲 三 郎
市外杉並町阿佐谷小山四二
文學士 尾 崎 忠 男
小石川、第六天町二三
折 口 信 夫
(前出)
陸軍砲兵大佐 近 藤 貞 雄
市外青山原宿一九八
陸軍歩兵大尉 本 江 政 一
(前出)

學生生徒

研究科

第一種生

姓名	出身學校
宮崎茂樹	國史科
久保寺逸彦	國文科
松山俊親	道義科
川口元亮	同
篠原四郎	同
內海信次	國文科
中山政高	同
足立茂	道義科
海部毅	同
上野正澄	國文科
梅本寬一	道義科
鈴木隆	國文科

當山俊道	國史科	同
秋末政治郎	國文科	兵庫
岸本芳雄	道義科	東京
宗宮祐夫	道義科	岐阜
祝宮靜	國史科	大分
小野輝雄	本學高師	神奈川
學部道義學科		
大正十五年度		
泉正人	本學豫科	鹿兒島
杉谷正倫	同	熊本
飯高規矩之左右	本學豫科	千葉

第二種生

木村祖教	同	静岡
岩澤舜一	本學豫科	岩手
黒住宗和	同	岡山
坂本健一	同	熊本
園山利雄	同	東京
士佐元	同	奈良
中西旭	商科大學	東京
福迫重樹	本學豫科	東京
渡邊增一	同	島根
渡邊利孝	同	長野
學部國史學科		
大正十五年度		
磯部勇雄	本學高師	愛知

姓名	出身學校
加藤菅根	本學豫科
龜井彌三郎	同
國枝正雄	同
澁谷繁	同
清水秀明	同
實積明治	本學高師
中澤武	本學豫科
服部佐	同
藤井貞文	同
宮崎寬三	同
宮原清	同
村田正志	同

小池榮一郎	同	神奈川
佐々木太郎	同	山形
城石勇雄	同	茨城
武知昌行	同	愛媛
蛭田三郎	同	福島
松田朝彦	同	熊本
三重宏三	同	埼玉
山本英男	同	廣島
小串重明	同	三重

桑貞彦	同	東京
久保寺久夫	同	山梨
菅卷修	同	茨城
腰卷佛二郎	同	山梨
小森嘉一	同	東京
鈴木正	中央法學	東京
蘭田武男	本學豫科	埼玉
高橋進	同	茨城
竹谷秀夫	同	北海道
多田弘道	同	北海道
田二谷松二	同	石川
土屋泰	同	香川
手塚六郎	法政豫科	茨城
西川瑞國	本學豫科	山形
福田耕二郎	同	茨城
堀田武弘	同	埼玉
松村秀賢	同	北海道
宮入秀夫	同	長野

昭和二年度

磯崎旭郎	本學豫科	岡山
市弘和	同	兵庫
岩本勝年	同	長野
勝田勝年	同	鳥根

昭和三年度

青木基	本學豫科	鳥根
安藤貞重	同	福島
大葉久治	同	岐阜
川原茂	同	福岡
河原直	同	福岡
鎌田松藏	日大豫科	宮城
木下武夫	本學豫科	兵庫
國信喜久多	同	佐賀

小池元男	小宮一郎	櫻木清憲	佐々川秀彦	島田博	高野鹿四雄	高橋高男	高崎英雄	武田武四	津田秀久	土屋憲二	土屋貞男	中里達郎	永山保夫	中村武國	秦野昌彦	原野昌彦	日野昇一	堀合健一
長野	東京	大分	福岡	神奈川	茨城	愛知	福岡	和歌山	神奈川	東京	東京	廣島	東京	山口	東京	東京	東京	東京

松田常彦	松田彦衛	三門憲太郎	道田忠雄	峯岸武司	保多幸三	矢野利雄	山口隆	山田俊夫	山本茂	山待政	行待政	吉田豐	與田左門	渡邊董一	遠藤司	緒方貞香	岡部壽美	(選)眞藤勝美
山形	福井	石川	大阪	埼玉	東京	大分	佐賀	東京	和歌山	京都	京都	神奈川	和歌山	福島	福島	宮城	山口	青森

佐々木末雄	佐藤守弘	鹽崎勝彦	鹽原信一	鈴木詮	大乗寺良武	田中正登	千坂正三	土田知雄	中村光	伯左門	波多江武文	樋口清之	北條豐太郎	牧原一郎	松崎健	前橋勝重	村田正言	森藤光美
宮崎	北海道	和歌山	北海道	靜岡	山形	徳島	京都	茨城	福岡	福岡	福岡	奈良	兵庫	廣島	栃木	東京	東京	三重

豫科第二學年〔甲〕

田澤俊三	中川紀	中村敏勝	中山四郎	沼口一美	平栗寛二	平野隆	藤井毅	三村達磨	宮本正明	森川正一郎	森川正一郎	山中正	吉田寧	岡崎昇	岡崎政一	尾竹正耕
長野	山梨	滋賀	鹿兒島	福岡	長野	佐賀	愛知	岡山	石川	山形	福岡	大阪	富山	茨城	兵庫	京都

淺野博	渥美政雄	天利秀雄	荒木正義	有賀秀久	池田秀久	石川要	石川年	市川和夫	江崎武男	河野喜代士	木佐紀久	木村公佐	北村長雄	北山長雄	木野鉉三郎	毛涯四郎	興招政夫	小林俊雄
茨城	愛知	神奈川	長崎	長野	滋賀	東京	東京	千葉	神奈川	東京	東京	神奈川	神奈川	青森	東京	長野	長野	長野

佐々木末雄	佐藤守弘	鹽崎勝彦	鹽原信一	鈴木詮	大乗寺良武	田中正登	千坂正三	土田知雄	中村光	伯左門	波多江武文	樋口清之	北條豐太郎	牧原一郎	松崎健	前橋勝重	村田正言	森藤光美
宮崎	北海道	和歌山	北海道	靜岡	山形	徳島	京都	茨城	福岡	福岡	福岡	奈良	兵庫	廣島	栃木	東京	東京	三重

豫科第二學年〔乙〕

姓名	出身學校	原籍	姓名	出身學校	原籍
東角井光臣	浦和中	埼玉	森田靜雄	本郷中	東京
平井英夫	多度津中	岡山	八木昇三	靜岡中	靜岡
平井綱雄	朝倉中	福岡	八坂重恭	堺中	東京
深川一信	武義中	岐阜	八代恒治	府立四中	東京
深井岩榮	府立六中	愛知	安江次郎	東濃中	岐阜
札場眞一	青森中	青森	安増國男	嘉穂中	福岡
松根進	濱松一中	北海道	柳井己酉朔	前橋中	群馬
松本弘一郎	日大中	靜岡	矢野安雄	佐伯中	大分
松本彌三郎	豐山中	東京	矢吹弘史	岡山一中	岡山
眞鍋淳	三豐中	愛媛	山田勝利	川越中	埼玉
丸山一雄	府立五中	愛媛	山田春一	柳井中	山口
三浦幸雄	磐城中	宮城	山本靜夫	靜岡中	靜岡
三田村亨	高田中	新潟	横井倫三	明倫中	愛知
水野都生	飯田中	長野	吉川悅治	三田中	兵庫
宮崎良朝	日川中	山梨	吉田正男	明治學院中	東京
宮杉一男	横濱一中	神奈川	吉田松四郎	淺野綜合中	東京
森照樹	帝大豫一	東京	吉田順三郎	金澤二中	長崎
森照樹	帝大豫一	東京	吉田常吉	府立六中	東京

專攻科

姓名 出身學校 原籍

厚見芳秀	金澤工	石川
阿部眞幸	山陽中	鳥根
伊藤文雄	田川中	福岡
酒井千春	鳳鳴中	兵庫
志波貞雄	八幡中	佐賀
柴崎弘平	磐城中	福岡
島田禎二	熊谷中	埼玉
清水二郎	興讓館中	岡山
杉森正一	掛川中	靜岡
尾原亨	大田中	鳥根
岡村綱一郎	順天中	長野
遠藤敏郎	德島商	德島
井邊敏郎	海草中	和歌山
井上信一	岡崎中	愛知
李家正文	吳中	廣島
米持格夫	宇佐中	大分

姓名	出身學校	原籍	姓名	出身學校	原籍
鈴木義雄	成章中	愛知	荒木謙次郎	鳥原中	長崎
高津肇	字佐中	大分	有田善亟	東筑中	福岡
田代政門	朝倉中	福岡	五十嵐等	福井中	福岡
田保橋凱	七尾中	石川	池田多佐雄	興風中	山口
内藤次郎	刈谷中	愛知	稻葉政見	下妻中	茨城
野上敏鷹	廣陵中	廣島	岩本正義	德島中	德島
長谷勝義	金澤一中	石川	上野規矩夫	志布志中	鹿兒島
福田誠二	富岡中	茨城	瓜生鹿久治	淺倉中	福岡
本間孝丸	龜城中	香川	江田清治	伊丹中	兵庫
松尾勝榮	名教中	福岡	江見喬平	宇治山田中	新潟
松尾三郎	大村中	長崎	奥谷半人	日大中	長野
宮崎久次	朝倉中	福岡	奥山源太郎	成章中	靜岡
渡邊久孝	下野中	福岡	大河内重比古	勵精中	三重
井上直弘	龍谷中	佐賀	片山辰雄	鎮西學院	長崎
井上直弘	龍谷中	佐賀	金田茂一	福島師	福岡
秋元正義	日本中	東京	河野誠德	成章中	愛知
秋元正義	日本中	東京	河合誠德	成章中	愛知
且尾嘉文	魚津中	富山	甲斐節夫	向陽學舍	宮崎
且尾嘉文	魚津中	富山	神沼春雄	熊谷中	埼玉

師範部第三學年〔甲〕

角田	土屋	竹間	田村	田中	田代	高萩	高岡	相馬	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	杉村	下山	志村	清水	佐藤
治有	人彦	高昌	昌尚	中滿	代貫	萩文	岡次	馬胤	木義	木昌	木敏	木敏	村顯	山勳	村良	水久	藤清
直	飯	宇	神	長	市	夫	雄	敏	雄	孝	秋	秋	顯	勳	一	治	雄
逗	田	土	通	崎	鞍	磐	小	相	商	秋	秋	秋	明	明	臺	三	白石
子	中	中	中	中	手	城	城	馬	工	田	田	田	治	治	北	神	神
開	飯	熊	富	長	福	福	福	福	神	秋	愛	愛	東	福	大	兵	宮
成	中	本	山	崎	岡	岡	岡	岡	奈	田	知	知	京	島	分	庫	城
中	野	山	崎	崎	井	岡	岡	岡	川	田	知	知	京	島	分	庫	城
神	野	山	崎	崎	井	岡	岡	岡	川	田	知	知	京	島	分	庫	城
奈	野	山	崎	崎	井	岡	岡	岡	川	田	知	知	京	島	分	庫	城
川	野	山	崎	崎	井	岡	岡	岡	川	田	知	知	京	島	分	庫	城
收	堀	堀	穗	星	深	平	樋	土	半	原	軒	中	中	中	中	中	寺
義	久	賢	敏	子	川	田	地	方	澤	田	原	山	村	村	村	島	尾
孝	直	三	一	春	巖	太郎	剛	正	善	清	利	八	清	武	昭	宗	
武	金	神	高	鹿	鹿	名	東	光	一	高	大	西	高	榛	太	二	
生	澤	宮	輪	本	島	教	北	府	福	松	川	條	中	原	池	吉	
中	三	皇	中	中	中	中	道	立	島	中	中	中	中	中	中	備	
京	川	學	中	中	中	中	道	第	中	中	中	中	中	中	商	岡	
都	川	科	中	中	中	中	道	二	中	中	中	中	中	中	岡	山	
小	小	緒	猪	井	井	山	柳	八	屋	村	武	虫	三	三	水	御	
野	川	方	股	上	上	田	原	木	々	井	藤	本	三	三	野	園	
小	芳	安	力	甲	金	道	五	日	田	憲	寅	茂	文	基	好	生	
野	文	臣	力	子	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
野	文	中	力	男	臣	爾	郎	出	隆	太	寅	忠	男	三	野	生	
小	文	中	力														

飯塚壯次	今泉靜	入江英	内田雄	宇都宮内	上山勇	植木吾	植田夫	江頭忠	奥田信	織田重	大家克	大島基	大島辰	大西聰	開沼耕	風間利	梶村吉	加藤芳
壯次	靜	英	雄	内	勇	吾	夫	忠	信	重	克	基	辰	聰	耕	利	吉	芳
柏壁中	安達中	下妻中	長崎中	田川中	日高中	魚津中	富岡中	大村中	高岡中	富山中	小城中	横濱二中	高崎中	盡誠中	山形中	新潟中	中學明善養	見付中
埼玉	福島	茨城	長崎	福岡	和歌山	富山	徳島	長崎	富山	富山	佐賀	神奈川	群馬	徳島	山形	新潟	福岡	静岡
加戸實	金子敬	金子信	金子道	川上一	河西忠	河野讓	河野一	神村平	神田清	菊地忠	喜多代護	行徳貞	楠田豊	國吉志	桑原三	隈部護	倉本順	栗本主
實	敬	信	道	一	忠	讓	一	平	清	忠	護	貞	豊	志	三	護	順	主
東京中	堺中	三條中	上田中	高梁中	大成中	杵築中	海城中	富岡中	東京主計	安積中	築上中	浮羽中	五條中	支那青島	日本中	鹿本中	飯田中	柀築中
岡山	大阪	新潟	長野	岡山	秋田	大分	東京	群馬	廣島	福島	福岡	福岡	奈良	鹿兒島	徳島	熊本	長野	大分
黒田津	菅野茂	小鳥千	小谷久	古平庄	後藤信	後藤好	後藤亮	小林直	小林善	小原武	酒井常	櫻井正	櫻井正	櫻井正	酒見靖	佐藤幸	佐藤剛	佐藤富
津	茂	千	久	庄	信	好	亮	直	善	武	常	正	正	正	靖	幸	剛	富
作	登	夫也	平	衛	夫	二	青山	介	夫	司	雄	雄	雄	雄	久	治	剛	士
石川師	相馬中	郡山中	富田林	上田中	福島中	開成中	院中	上田中	嘉徳中	豐橋中	神戶中	松阪商	北佐久	七尾中	名教中	磐城中	新	大
石川	福島	奈良	大阪	長野	福岡	新潟	東京	長野	福岡	愛知	兵庫	三重	三重	石川	新潟	新潟	新潟	大

柴田節郎	芝田文男	芝原要	鳥田金作	鳥田順四郎	杉山茂夫	鈴木實	鈴木好	鈴木隆	須田厚	關口貞雄	關口喜馬雄	瀬戸進	反田春雄	高野彌夫	高橋覺	高橋茂雄	西村信次	高屋二郎	
節郎	文男	要	金作	順四郎	茂夫	實	好	隆	厚	貞雄	喜馬雄	進	春雄	彌夫	覺	茂雄	信次	二郎	
天王寺中	小濱中	富岡中	角田中	館林中	小田原中	安房中	山形師	鎌原師	沼田中	浦和中	熊谷中	唐津中	横須賀中	身延中	安達中	青英商	松任農	徳島中	
静岡	福井	徳島	宮城	群馬	神奈川	千葉	山形	神奈川	群馬	埼玉	埼玉	佐賀	神奈川	山梨	福島	愛知	石川	徳島	
武田憲三	武田慎三	立石忠重	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭	田中圭
村上中	新潟中	長崎	廣島	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山	岡山
土肥利行	富岡金次郎	長島精次	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝	中島勝
貿易語	宇治山田中	榛原中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中	鹿兒島一中
熊本	三重	静岡	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島	徳島

高等師範部第一學年(乙)

松尾四郎	松井照好	松原静	松永稔	松田喜久雄	増田喜久雄	星利龜	星崎英雄	古山武夫	古屋祥一	藤卷文藏	藤田正	瀧上敏夫	福永晋作	廣田篤行	平野稔	東野正雄	原田勝	林静男
鹿島中	上田中	名古屋中	名古屋中	富山中	富山中	相馬中	小田原中	長生中	日川中	野澤中	野澤中	中學明善校	鹿本中	德島中	大野中	鹿本中	賀易語	飲肥中
佐賀	長野	愛知	愛知	長崎	富山	福島	神奈川	千葉	千葉	長野	茨城	福岡	熊本	德島	福井	熊本	德島	宮崎
山田	山下	山下	山下	山口	山口	矢野	安田	矢野	守屋	森田	森田	森田	森澤	宮内	宮内	宮崎	三田	眞鍋
東一郎	知躬	仙吉	龜三郎	定松	茂松	磐屋代中	節義	良平	正雄	政夫	甚一郎	重雄	吉雄	當昌	一福	元辰	眞一郎	宗次
東北中	札幌一中	濱松一中	相川中	鹿島中	太田中	佐賀	日川中	青山學院中	府立二中	山陽中	德島中	大村中	不動岡中	豐山中	福島中	中學修猷館	茨城師	神戶二中
宮城	東京	静岡	新潟	群馬	群馬	長野	山梨	東京	東京	廣島	德島	長崎	埼玉	福島	福島	茨城	兵庫	兵庫
富田	丹羽	小野	尾沼	尾關	岡村	岡田	遠藤	井上	若山	若月	王子田	肆矢	吉岡	吉岡	橫井	楠原	湯淺	山村
清逸	正樹	龜一	信一	貞一	進	照近	重利	賢太郎	象夫	利一	義雄	泰一	武夫	正巳	金男	原久亮	久孝	忠之
愛知國	愛知國	金光中	上田中	酒田中	若松中	高知商	甲府中	浦和中	目白中	小卷中	指宿中	日大中	鹿島中	三田中	三島中	相馬中	泉尾工	下關中
愛知	岐阜	岡野	長野	山形	福岡	高知	山梨	埼玉	北海道	新潟	鹿兒島	東京	佐賀	兵庫	香川	福島	大阪	廣島

古井繁義	小野田鎮男	(選)加來敬一	(同)高橋良雄	(同)岸一郎	(聽)櫻井正夫	朝倉秀政	和原雅路	雨宮祐政	青戸堅磐	一瀬清	伊藤秀	伊藤不二夫	忌部好夫	上野浅太郎				
愛知國	愛知國	東築中	旅順中	安達中	青山學院中	愛知七中	湘南中	東京中	島根大社中	兵庫鳳鳴中	新潟中	福岡豊國中	福岡丸龜中	福岡八幡中				
愛知	愛知	福岡	北京	福岡	東京	神奈川	神奈川	東京	島根	兵庫	新潟	福岡	福岡	岡山				
遠藤一男	追林	太田	大野	大宮	柿原	加藤	要	河原崎	甲斐	神永	黑神	小宮	笹木	佐藤	佐藤	重松	白崎	杉本
山形中	山形	東京	東京	東京	東京	大阪	大阪	京都	宮崎	宮崎	茨城	茨城	茨城	茨城	茨城	茨城	茨城	茨城
鈴木行雄	瀨川	高江洲	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤	高澤
靜岡	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京

三輪田元正	宇和島中	愛媛	三輪田元正	宇和島中	愛媛
毛利正彦	斐太中	岐阜	毛利正彦	斐太中	岐阜
森原良孝	京都中	廣島	森原良孝	京都中	廣島
安川昭易	天台宗中學	東京	安川昭易	天台宗中學	東京
安井吉文	水口中	滋賀	安井吉文	水口中	滋賀
和田次夫	長野中	長野	和田次夫	長野中	長野
渡邊信太郎	都留中	山梨	渡邊信太郎	都留中	山梨
和田義男	太田中	茨城	和田義男	太田中	茨城
井上龍雄	宮崎中	宮崎	井上龍雄	宮崎中	宮崎
小原力	錦城中	千葉	小原力	錦城中	千葉
(別)今永貞治	神職養成部	大分	(別)今永貞治	神職養成部	大分
(別)奧田明夫	愛知國學	岐阜	(別)奧田明夫	愛知國學	岐阜
(別)佐藤勳	京都國學	大阪	(別)佐藤勳	京都國學	大阪
(別)長島三郎夫	神職養成部	栃木	(別)長島三郎夫	神職養成部	栃木
(別)泊瀬川泉	同	神奈川	(別)泊瀬川泉	同	神奈川
(別)星信三	東北學尋正	宮城	(別)星信三	東北學尋正	宮城
(別)松平定京	神職養成部	長崎	(別)松平定京	神職養成部	長崎
(別)吉嗣茂雄	福岡神職養成所	福岡	(別)吉嗣茂雄	福岡神職養成所	福岡

神職部第一學年

青木久次郎	浪速中	大阪	青木久次郎	浪速中	大阪
安藤邦夫	仙臺一中	宮城	安藤邦夫	仙臺一中	宮城
上村爲典	伊丹中	兵庫	上村爲典	伊丹中	兵庫
興滿豐彦	國東中	大分	興滿豐彦	國東中	大分
大神正義	今津中	滋賀	大神正義	今津中	滋賀
勝山忠虎	須坂中	長野	勝山忠虎	須坂中	長野
神林淳雄	白河中	山形	神林淳雄	白河中	山形
北川和夫	海城中	東京	北川和夫	海城中	東京
喜田川清香	勵精中	三重	喜田川清香	勵精中	三重
木下明	小城中	佐賀	木下明	小城中	佐賀
桐島秀一	八幡中	福岡	桐島秀一	八幡中	福岡
九鬼中	成城中	三重	九鬼中	成城中	三重
九里道守	魚津中	富山	九里道守	魚津中	富山
合田和夫	七尾中	石川	合田和夫	七尾中	石川
齋木勝彦	濱田中	鳥根	齋木勝彦	濱田中	鳥根

柴田八十二	下關中	山口	柴田八十二	下關中	山口
正田重真	己斐中	山口	正田重真	己斐中	山口
白岩直樹	津山中	岡山	白岩直樹	津山中	岡山
神保信利	聖峯中	大阪	神保信利	聖峯中	大阪
鈴木幸雄	安積中	福島	鈴木幸雄	安積中	福島
諏訪頼宣	大町中	長野	諏訪頼宣	大町中	長野
高倉清彰	日田中	大分	高倉清彰	日田中	大分
高辻龜之進	豊津中	福岡	高辻龜之進	豊津中	福岡
高橋清次	府立工藝	東京	高橋清次	府立工藝	東京
高橋久男	中津中	大分	高橋久男	中津中	大分
長曾我部勝	岡山製	愛媛	長曾我部勝	岡山製	愛媛
辻野廣次	堺中	大阪	辻野廣次	堺中	大阪
野中正造	京城中	熊本	野中正造	京城中	熊本
萩原俊夫	高輪中	東京	萩原俊夫	高輪中	東京
島山英俊	武生中	福井	島山英俊	武生中	福井
原口業	松山中	埼玉	原口業	松山中	埼玉
平岡熊太郎	北野中	大阪	平岡熊太郎	北野中	大阪

福島信義	順天中	東京	福島信義	順天中	東京
本間三樹男	佐渡中	新潟	本間三樹男	佐渡中	新潟
松木瑞家	安積中	福島	松木瑞家	安積中	福島
前田勝也	日本中	東京	前田勝也	日本中	東京
三上俊太郎	浪速中	大阪	三上俊太郎	浪速中	大阪
宮田榮男	水戸中	茨城	宮田榮男	水戸中	茨城
村上勝清	第一中	石川	村上勝清	第一中	石川
山邊貞一郎	弘前中	青森	山邊貞一郎	弘前中	青森
八槻淳良	石川中	福島	八槻淳良	石川中	福島
山口卓次	東濃中	岐阜	山口卓次	東濃中	岐阜
吉原正美	下妻中	茨城	吉原正美	下妻中	茨城
吉成安親	字佐中	大分	吉成安親	字佐中	大分
吉野松男	新竹中	長崎	吉野松男	新竹中	長崎
米光春一	佐賀農	佐賀	米光春一	佐賀農	佐賀
鷺嶽彦男	輪島中	石川	鷺嶽彦男	輪島中	石川
小方隆	宗像中	福岡	小方隆	宗像中	福岡
(別)阿蘇保夫	鎮西中	熊本	(別)阿蘇保夫	鎮西中	熊本
(同)池田八郎	皇典講究所	北海道	(同)池田八郎	皇典講究所	北海道
(同)石井貞雄	神職養成部	千葉	(同)石井貞雄	神職養成部	千葉

(同)飯正樹	福岡縣神	長崎	(同)飯正樹	福岡縣神	長崎
(同)貞方衛	中學猶興館	長崎	(同)貞方衛	中學猶興館	長崎
(同)杉村兼繼	皇典講究所	東京	(同)杉村兼繼	皇典講究所	東京
(同)竹内三一郎	京都國學院	新潟	(同)竹内三一郎	京都國學院	新潟
(同)近重眞民	京都國學院	高知	(同)近重眞民	京都國學院	高知
(同)豊福長人	福岡縣神	福岡	(同)豊福長人	福岡縣神	福岡
(同)永井一郎	皇典講究所	廣島	(同)永井一郎	皇典講究所	廣島
(同)深瀬秀三	神職養成部	東京	(同)深瀬秀三	神職養成部	東京
(同)二山孝重	同	徳島	(同)二山孝重	同	徳島
(同)堀尾義忠	京都國學院	愛知	(同)堀尾義忠	京都國學院	愛知
(同)町田尙夫	豊國中	長崎	(同)町田尙夫	豊國中	長崎
(同)村田廣信	皇典講究所	宮城	(同)村田廣信	皇典講究所	宮城
(同)安田靜雄	同	兵庫	(同)安田靜雄	同	兵庫
(同)山田勝稻	同	山口	(同)山田勝稻	同	山口
(同)吉松芳美	鹿屋農	鹿兒島	(同)吉松芳美	鹿屋農	鹿兒島
(同)猪山正助	日田中	福岡	(同)猪山正助	日田中	福岡
(同)小澤剛	福島中	福岡	(同)小澤剛	福島中	福岡

(聽)大澤波穂	登戸修	長野	(聽)大澤波穂	登戸修	長野
(同)川崎嘉添	スクウル	高知	(同)川崎嘉添	スクウル	高知
(同)小泉勝太郎	愛知國學	東京	(同)小泉勝太郎	愛知國學	東京
(同)藤城隆	東陽補習	千葉	(同)藤城隆	東陽補習	千葉
(同)生田清	奉天中	秋田	(同)生田清	奉天中	秋田
(同)外山英資	立命館中	京都	(同)外山英資	立命館中	京都

高等學校教員無試驗檢定出願心得

第一條 學部ヲ卒業シタル後高等學校高等科ニ於ケル修身科、哲學概説科、國語科、日本史及東洋史科教員ノ無試驗檢定ヲ受ケント欲スル者ハ豫メ左ノ諸項ヲ心得置クヘシ

一、修身科教員ノ無試驗檢定ヲ受ケント欲スル者ハ道義學科、倫理科所定ノ必修科目以外隨意科目中ニ

哲 學 二單位

東洋哲學史 一單位

教 育 學 一單位

教 育 史 一單位

ヲ含メテ修了スルコトヲ要ス

二、哲學概説科教員ノ無試驗檢定ヲ受ケント欲スル者ハ道義學科哲學科所定ノ必修科目以外隨意科目中ニ

論 理 學 一單位

倫 理 學 一單位

教 育 學 一單位

教 育 史 一單位

ヲ含メテ修了スルコトヲ要ス

三、國語科教員ノ無試驗檢定ヲ受ケント欲スル者ハ國文學科所定ノ必修科目以外隨意科目中ニ

東 洋 哲 學 一單位

漢 文 學 一單位

教 育 學 一單位

教 育 史 一單位

ヲ含メテ修了スルコトヲ要ス

四、日本史及ヒ東洋史科教員ノ無試驗檢定ヲ受ケント欲スル者ハ國史學科所定ノ必修科目以外隨意科目中ニ

東 洋 哲 學 三單位

東 洋 史 學 三單位

教 育 學 一單位
教 育 史 一單位

ヲ含メテ修了スルヲ要ス

第二條 無試験檢定ヲ出願セント欲スル者ハ教員檢定ニ關スル規程ニ依リテ願書ヲ認メ本大學ニ提出スヘシ

學長ハ之ヲ教授會議ニ附シタル上文部大臣ニ進達ス

中等學校教員無試験檢定出願心得

第一條 學部ヲ卒業シタル後師範學校中學校高等女學校ニ於ケル修身科、國語科、漢文科、歴史科教員ノ無試験檢定ヲ受ケント欲スル者ハ豫メ左ノ諸項ヲ心得置クヘシ

一、修身科教員ノ無試験檢定ヲ受ケント欲スル者ハ道義學科所定ノ必修科目以外、隨意科目中ニ
教 育 學 一單位
教 育 史 一單位

哲學科ニ在テハ更ニ倫理學一單位ヲ含メテ修了スルコトヲ要ス

二、國語科及ヒ漢文科教員ノ無試験檢定ヲ受ケント欲スル者ハ國文學科所定ノ必修科目以外隨意科目中ニ

教 育 學 一單位
教 育 史 一單位

ヲ含メテ修了スルコトヲ要ス

三、歴史科教員ノ無試験檢定ヲ受ケント欲スル者ハ國史學科所定ノ必修科目以外隨意科目中ニ
教 育 學 一單位
教 育 史 一單位

ヲ含メテ修了スルコトヲ要ス

第二條 無試験檢定ヲ出願セント欲スル者ハ教員檢定ニ關スル規程ニ依リテ願書ヲ認メ本大學ニ提出スヘシ

學長ハ之ヲ教授會議ニ附シタル上文部大臣ニ進達ス

國學院大學圖書館圖書閱覽規則

第一條 本館ノ開閉時間及休日ハ左ノ如シ

- 一、平日ハ午前八時ヨリ午後七時迄
- 一、日曜日ハ午前九時ヨリ午後四時迄
- 一、春期休業間ハ午前九時ヨリ午後四時迄
- 一、夏期休業間ハ午前八時ヨリ正午迄
- 一、冬期休業間ハ午前九時ヨリ午後四時迄
- 一、休日ハ祝祭日、本所本大學創立記念日、卒業式當日

但シ開閉時間ハ臨時變更スルコトアルヘシ

第二條 圖書ヲ閱覽セントスルモノハ借書票ニ書名、冊數、記號、年月日、姓名ヲ詳記シ學生證ヲ添ヘテ借受ケノ手續ヲナスヘシ

但シ圖書ハ閱覽室外ヘ帶出スルコトヲ許サス

第三條 左ニ掲クル者ハ特ニ許可ヲ經タル上、圖書ノ閱覽ヲナスコトヲ得

- (一) 皇典講究所卒業生
- (二) 本大學卒業生

(三) 神職養成部卒業生

(四) 本所本學ニ特別ノ關係アル者

(五) 諸官廳學校等ヨリ特ニ照會アル者

第四條 閱覽室ニアリテハ靜肅ヲ旨トシ音讀、談笑、喫煙等ヲナスヘカラス其他スヘテ閱覽者ノ障礙トナルヘキ舉動ヲ禁ス

第五條 教職員ハ必要ノ場合其ノ旨ヲ館員ニ通シタル上、書庫内ノ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

第六條 研究室ニ要スル圖書ハ其主任ノ名義ヲ以テ之ヲ借受クルモノトス

第七條 教授講師ハ參考用トシテ一員三拾冊(和洋製ヲ論セス)ヲ限り其他ノ職員ハ一員拾冊ヲ限りテ借受クルコトヲ得、其ノ借受期間ハ何レモ一ヶ月以内トス

第八條 逐次刊行ノ雜誌新聞紙類ハ到着セル日ヨリ三十日ヲ經過セサレハ借受帶出スルコトヲ得ス

第九條 貴重圖書、辭書、目錄類ハ所長若クハ學長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ館外ヘ帶出スルコトヲ許サス

第十條 教職員ニシテ退職ノ場合ハ借受ケタル圖書ヲ直ニ返納スルモノトス

第十一條 本館ニ於テ圖書點檢ノ必要アル時ハ借受者ニ對シ臨時圖書ノ返納ヲ求ムルコトアルヘシ

第十二條 借覽ノ圖書ヲ紛失シ或ハ汚損シタル時ハ必ス之ヲ辨償セシム、時宜ニヨリテハ圖書ニ代フルニ其時價ヲ以テスルコトアルヘシ

一一二

國學院大學學友會々則

第一條 本會ハ國學院大學々友會ト稱シ本大學々生（大學部高等師範部大學豫科及神職部）ヲ以テ組織ス

第二條 本會ニ左ノ十部ヲ置ク

總務部 文藝部 辯論部 劍道部 柔道部 野球部 庭球部 弓道部 競走部
音樂部

第三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 理事長 部長 理事 委員

第四條 會長ニハ學長ヲ推戴ス

第五條 理事長ハ學生監ニ委託ス

理事長ハ會長ノ命ニ依リテ一切ノ事務ヲ總理ス

第六條 部長ハ各部ニ於テ本學教授講師中ヨリ之ヲ推戴シ會長ノ認可ヲ經ルモノトス

但シ二部以上ノ兼任ヲ許サス

第七條 理事ハ各部二名トシ學年末ニ於テ推薦又ハ互選ニヨリ理事長ノ認可ヲ經テ之ヲ定メ其部ニ於ケル一切ノ事務ヲ處理スルモノトス

但シ總務部ノミハ理事四名トシ大學部、高等師範部、大學豫科及神職部、最上級生中ヨリ各一名ヲ學年末ニ於テ推薦又ハ互選ニ依リテ之ヲ定メ理事長ヲ輔ケテ事務ヲ處理スルモノトス

第八條 委員ハ各部五名トシ推薦又ハ互選ニヨリ理事長ノ認可ヲ經テ之ヲ定メ理事ヲ助ケテ其部ノ事務ヲ處理ス

第九條 理事及委員ノ任期ハ學年度始ヨリ一箇年トス但シ事務引渡シノ責任アリ

第十條 理事ハ二部以上ノ兼任ヲ許サス但シ委員ハ此限リニアラス

第十一條 豫算會ハ毎年五月上旬會長ノ名ニ依テ理事長之ヲ召集ス

第十二條 豫算ハ總務部理事及各級委員ニ依テ審査決定ス但シ代理ヲ許サス

第十三條 總務部ヲ除ク各部理事ハ豫算會ニ參列シ單ニ豫算ノ説明ヲナスモノトス但シ理事不參ノ場合ハ理事長ノ許可ヲ得テ委員之ニ代ルコトヲ得

一一三

第十四條 各部ハ豫メ本會總收入ノ七分ノ一以内ニ於テ適當ノ豫算案ヲ作製シ總務部理事ニ提出シ總務部理事ハ各部豫算案ヲ總括シテ理事長ニ提出ス

如何ナル事情アリトモ一部ニシテ本會總收入七分ノ一以上ノ豫算額ヲ獲得スルヲ得ス但シ總務部豫算ハコノ限りニアラス

第十五條 會議ノ場合ハ全員ノ五分ノ三以上ノ出席者アルヲ要ス

第十六條 決議ハ多數決ノ法ニヨル但シ贊否相半スル時ハ理事長ノ裁決ニヨルモノトス

第十七條 各部ハ其年度ヲ左ノ二期ニ分チ各期末(但シ後期ハ二月末日)ニ會計報告書ヲ總務部理事ニ提出シ總務部理事ハ之ヲ總括シテ理事長ニ提出ス

前期自四月一日至十月三十一日 後期自十一月一日至三月三十一日

第十八條 理事長ハ每期審査會ヲ招集シ當該期間ニ於ケル各部ノ會計審査ヲナス

第十九條 會計審査會ハ左ノ組織ニ依ル

審査會長ニハ理事長之ニ當ル

審査員ハ大學部高等師範部ヨリ各三名豫科ヨリ二名神職部ヨリ二名トシ各級委員中ヨリ互選ス

第二十條 審査會ニ於テ不當ト認メタル支出ハ當該理事ソノ責任ヲ負フモノトス

第二十一條 事後承諾ノ形式ニ於テ豫メ明年度ノ收入中ヨリ前借支出スルコトヲ得ス

第二十二條 新ニ部ヲ創設セントスル時ハ經常費ノ財源ヲ有シ役員會議ヲ開キ滿場一致ノ可決ヲ經ルコトヲ要ス但シ其經常費ハ臨時ノ寄附行爲(學生院友教授等ノ學校關係者ニ對シテ)ヲ要求スヘカラス

第二十三條 會員ハ年額金拾圓ヲ會費トシテ納メ入學ノ當時入會金トシテ金貳圓ヲ納ムヘキモノトス但シ會費ハ三期ニ分チテ納ムルコトヲ得

第二十四條 本會則ヲ改正増補セントスル時ハ豫算會ノ決議法ヲ準用スルモノトス

附 則

本會則ハ昭和二年度ヨリ實施ス

稻荷神社獎學金規程

第一條 本獎學金ハ官幣大社稻荷神社獎學金ト稱シ神宮皇學館本科研究科及普通科並ニ國學院大學學部高等師範部神職部及研究科ニ在學セル學生ニシテ卒業後永ク神祇ノ祭祀ニ從事シ又ハ廣ク神祇道ニ關シ調査研究ヲ爲サントスルモノ並ニ右卒業以外ノ卒業生ニシテ特ニ神祇道ニ關スル調査研

究ヲ爲サントスル者ニ對シテ之ヲ給付ス

一一六

第二條 本規程第三條以下ニ神社ト稱スルハ官幣大社稻荷神社ヲ兩費ト稱スルハ神宮皇學館及國學院大學ヲ指稱ス

第三條 本獎學金受給付者ハ兩費ニ於テ品行方正思想堅實ニシテ學力優秀身體強健ナル學生ニ就キ兩費各別ニ詮衡シ神社ノ同意ヲ經テ之ヲ選定スルモノトス

第四條 本獎學金ハ一名ニ付一ヶ月金五拾圓以内トシ同一人ニ給付スル期間ハ三年以内トス

第五條 本獎學金受給付者ヲ選定シタル時ハ兩費ハ本人ニ對シ連帶責任アル保證人ヲ立テシムル事ヲ要ス

第六條 本獎學金ハ左記ノ如ク漸次増額シ當分金參千六百圓ヲ以テ限度トシ十七年度(昭和三年度)以降引續キ之ヲ兩費ニ寄贈スルモノトス

大正十四年度

金一千二百圓也

大正十五年度

金二千四百圓也

大正十六年度(昭和二年度)

金三千六百圓也

第七條 前條ノ獎學金ハ之ヲ兩費ニ切半シ每半年度ノ始ニ於テ半額宛ヲ交付ス

第八條 神社ノ都合ニ依リ將來獎學金ヲ減額又ハ休止シ、或ハ廢止スル場合アリトモ既ニ選定シタル受給付者ニ對シテハ卒業迄之ヲ給付ス

第九條 本獎學金ノ受給付者ノ學業成績及給付狀態等ハ每學年終了後兩費ヨリ直ニ神社ニ報告スルモノトス

第十條 卒業者ノ調査研究スヘキ題目ハ兩費ニ於テ豫メ神社ノ同意ヲ得テ決定シ其ノ成績ハ完了後本人ヨリ兩費ニ兩費ヨリ神社ニ報告スルモノトス

第十一條 兩費ハ本獎學金受給付者ヲ決定シタル時ハ成ルヘク其ノ受給付者ヲ受給付者卒業シタルトキハ必ス其ノ卒業者ヲシテ神社ニ參拜セシムルモノトス

第十二條 受給付者ニシテ不都合ノ廉アリタルトキハ兩費ハ神社ノ同意ヲ經テ相當ノ處分ヲナシ既給ノ獎學金ヲ返還セシムルモノトス、但シ特別ノ事情アル者ハ兩費ニ於テ神社ノ同意ヲ經テ返還金ノ一部若クハ全部ヲ免除スル事ヲ得

第十三條 前條ノ返還金及預金利子又ハ剩餘金等ハ之ヲ次年度ニ繰越シ受給付者ノ旅費其ノ他必要ナル學費ニ支出スルコトヲ得

第十四條 本獎學金ニ關シ兩費ニ於テ給付規程其ノ他必要ナル内規等ヲ定メタルトキハ神社ニ報告ス

一一七

ルモノトス

第十五條 兩費ニ於テ神社ニ對シ第三條第十條第十二條ノ同意ヲ需メス若クハ第九條第十條ノ報告ヲナサス又ハ第五條第十一條等ノ規定ヲ履行セサルトキハ神社ハ其費ニ對シ其費ノ新ニ給付セントスル神社獎學金ノ寄贈ヲ謝絶スル事アルヘシ

全國神職會教育補助金規程

第一條 本補助金ハ神宮皇學館本科及研究科並ニ國學院大學各部、高等師範部、神職部及研究科ニ在學セル學生ニシテ卒業後永ク祭祀ニ從事シ又ハ廣ク神祇道ニ關シ調査研究ヲ爲サントスル者ニ對シテ給付ス

第二條 本補助金受給付者ハ神宮皇學館、國學院大學長ニ於テ、品行方正、學術優秀ナル學生ニツキテ詮衡シ本會ニ移牒スルモノトス

第三條 本補助金ハ一名ニ付一ヶ月金拾圓以内トス

第四條 本補助金ハ本會ノ都合ニヨリ減額又休止スルコトアルヘシ

第五條 受給者ニシテ不都合ノ慶アリタル時ハ大學又ハ學館ハ本補助金ノ給付ヲ停止又ハ變更スルコトアルヘシ

トアルヘシ

第六條 本補助金ノ受給付者ノ學業成績及給付狀態等ハ每學年終了後大學及學館ヨリ本會ニ通知スルモノトス

國學院大學校歌

文藝博士 芳賀 矢一 作

一
見はるかすもの皆清らなる澁谷の丘に大學たてり
いにしへ今の文明らめて國の基を究むるところ

二
外つ國々の長きを採りて我が短きを補ふ世にも
いかで忘れんもとつ教はいよよ磨かんもとつ心は

三
學びの巷そのやちまたに國學院の宣言高く
祖先の道は見よここにあり子孫の道は見よここにあり

昭和三年十一月十日印刷
昭和三年十一月十五日發行

國學院大學

東京、澁谷町
電話青山五七八五・五七八七

國學研究大學

中華民國二十六年五月二十八日

第一卷 第一期
五月二十八日發行

82

32

